

英米文学特殊講義IA		【単位数	2単位
授業コード	D3100	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	新野 緑		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
19世紀イギリス小説を取り上げ、作品を独自の視点から分析的に読む方法を身につけると共に、その背景をなす歴史的文化的事象を深く理解する。ディケンズ、サッカレー、ブロンテ等の作品を精読し、作者の伝記的事象や社会背景を視野に入れつつ、作品の特殊な語りや表現の形を考える。本年度は、ヴィクトリア朝を代表する女性作家Emily BronteのWuthering Heightsを精読する。キャサリンとヒースクリフの激しい愛と、それが引き起こした恐ろしい復讐劇を描くこの物語は、現代においても解き明かされない様々な謎に満ちた作品でもある。ロックウッドとネリーという二人の語り手を持つ物語の特殊な語りの構造や、当時の歴史的文化的社会事情なども参照しながら、この作品が孕む謎の解読に挑むことを通して、文学研究の基本的な方法を確認し、自身の研究に応用する力を養う。1期はVolume Iを読む。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)
1	1. テキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	2. 先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	3. 自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。		思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業への積極的参加 20%		1/2/3
2	発表 20%		1/2/3
3	最終レポート60%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. 作家紹介とエミリー・ブロンテ研究の歴史 2. Vol. I Chapter 1: Lockwoodという語り手 3. Chapter 2: 家族の葛藤 4. Chapter 3: Catherineの亡霊 5. Chapter 4: Nellyの語り 6. Chapter 5: Mr Earnshawの死 7. Chapter 6: Hindleyの帰還 8. Chapter 7: Catherineの変貌 9. Chapter 8: Francesの死 10. Chapter 9: Edgarとの結婚 11. Chapter10: Heathcliffの帰還 12. Chapter 11: 誘惑 13. Chapter 12: 駆け落ち 14. Chapter 13: イザベラの手紙 15. まとめとディスカッション			

試験等
16回目にレポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manaba等を通して適宜行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（60分） （事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（30分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書>Emily Bronte, Wuthering Heights. Penguin Classics. 2002. ISBN-10 : 0141439556 ISBN-13 : 978-0141439556 各自で授業開始までに購入してください。 その他の参考書は適宜授業で紹介、または配布する。
オフィスアワー
随時。授業の前後、またはメール等に対応する。対面を希望する場合は、事前にメールで予約すること。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。 自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。 授業で取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

英米文学特殊講義I B		【単位数】	2単位
授業コード	D3101	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	新野 緑		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
19世紀イギリス小説を取り上げ、作品を独自の視点から分析的に読む方法を身につけると共に、その背景をなす歴史的文化的事象を深く理解する。ディケンズ、サッカレー、ブロンテ等の作品を精読し、作者の伝記的事象や社会背景を視野に入れつつ、作品の特殊な語りや表現の形を考える。本年度は、ヴィクトリア朝を代表する女性作家Emily BronteのWuthering Heightsを精読する。キャサリンとヒースクリフの激しい愛と、それが引き起こした恐ろしい復讐劇を描くこの物語は、現代においても解き明かされない様々な謎に満ちた作品でもある。ロックウッドとネリーという二人の語り手を持つ物語の特殊な語りの構造や、当時の歴史的文化的社会事情なども参照しながら、この作品が孕む謎の解読に挑むことを通して、文学研究の基本的な方法を確認し、自身の研究に応用する力を養う。2期はBook IIと主だった研究書を読む。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	1. テキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	2. 先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	3. 自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。		思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業への積極的参加 20%		1/2/3
2	発表 20%		1/2/3
3	最終レポート60%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 前期のレポートに対するフィードバックと、Book IIについてのディスカッション Book II Chapter1, 2: Catherineの死 Chapter 3, 4 : Hindleyの死 Chapter 5, 6 : LintonとCathy Chapter 7, 8 : HaretonとCathy Chapter 9, 10 : 手紙 Chapter 11, 12 : 三角関係 Chapter 13, 14 : Heathcliffの策略 Chapter 15, 16 : 結婚とEdgarの死 Chapter 17, 18 : 1802年 Chapter19, 20 : Haretonの変化 Chapter21: 復讐の終わり Wuthering Heightsに関する研究書の講読 (1) : 文化批評 Wuthering Heightsに関する研究所の講読 (2) : ジェンダー批評 まとめとディスカッション 			

試験等
16回目にレポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manaba等を通して適宜行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（60分） （事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（30分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書>Emily Bronte, Wuthering Heights. Penguin Classics. 2002. ISBN-10 : 0141439556 ISBN-13 : 978-0141439556 各自で授業開始までに購入してください。第1期と同じ教科書なので、第1期に受講した人は購入する必要はない。 その他の参考書は適宜授業で紹介、または配布する。
オフィスアワー
随時。授業の前後、またはメール等に対応する。対面を希望する場合は、事前にメールで予約すること。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。 自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。 授業で取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。 単独でも受講できるが、「英米文学特殊講義IA」を履修していることが望ましい。

英米文学特殊講義IIA		【単位数】	2単位
授業コード	D3110	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	木原 健次		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
本講では、初期の植民地時代から19世紀にかけてのアメリカ開拓期の文学とその背景をなす文化の特質に焦点を当てる。特に、ネイティブアメリカンとヨーロッパ系アメリカ人それぞれの文化や人種間の「フロンティア」の形成とその意義に焦点をあて、紀行文学、詩、演劇、フィクションなど多様なジャンルを横断的に取り上げながら、それらに提示される二つの文化のせめぎ合いと融合の可能性を考察し、文学が表象するアメリカ社会の実像に迫る。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	ネイティブアメリカンの歴史・文化・文学的伝統の概要について、英語で説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	19世紀・20世紀におけるネイティブ・アメリカンの最重要作家たちの作品を英語で把握し、かつ議論することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	積極的な授業参加 (30%)		1/2
2	プレゼンテーション (40%)		1/2
3	15ページの期末レポート (30%)		1/2
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to Native American history, culture, and literature 2. Creation myths of the Northeast 3. Creation myths of the Southwest 4. Creation myths of the West 5. European contact and cultural crises (15th-18th centuries) 6. European contact and cultural crises (19th-20th centuries) 7. Apes, Son of the Forest 8. Winnemucca, Life Among the Paiutes (Part 1) 9. Winnemucca, Life Among the Paiutes (Part 2) 10. Black Elk, Black Elk Speaks (Part 1) 11. Black Elk, Black Elk Speaks (Part 2) 12. Silko, Ceremony (Part 1) 13. Silko, Ceremony (Part 2) 14. Critical reception 15. Review of secondary scholarship, final essay preparation 			

試験等 16週目に15ページの期末レポート（英語）を提出する。
試験のフィードバックの方法 毎週の発表・報告に対してフィードバックを行う。期末レポートにコメントをつけて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎週授業の予習として、課題テキストの精読（6時間）とそれに基づいた発表準備（2時間）を行うことが求められる。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で適宜紹介する。
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 kenji.kihara@tsuda.ac.jp
留意事項 講義での説明等に疑問がある場合は必ず確認すること。

英米文学特殊講義II B		【単位数】	2単位
授業コード	D3111	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	木原 健次		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
本講は、IIAに引き続き19世紀半ばから現代にかけてのアメリカ開拓文学を取り扱う。なかでも、支配層となったヨーロッパ系アメリカ人の価値観や伝統と、彼らの権力のもとで周辺化されていったネイティブアメリカンをはじめとするその他のマイノリティの人々の社会との間にある「フロンティア」に注目する。そして、紀行文学、詩、演劇、フィクション等の作品からそうした社会に潜む「境界」の問題を読み取り、主要参考文献の検討をも含めた多角的な視点から考察を行う。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	アフリカ系アメリカ人の歴史、文化、文学的伝統の概要について、英語で説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	19世紀・20世紀におけるアフリカ系アメリカ人の最重要作家の作品について、英語で把握し、かつ議論することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	積極的な授業参加 (30%)	1/2	
2	毎週のプレゼンテーション (40%)	1/2	
3	15ページの期末レポート (30%)	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to African American history and culture 2. African roots, European roots, hybridity in American literature 3. Traditional chants and songs, Gospel, oratory 4. Racial identity and miscegenation 5. Douglass, The Autobiography of Frederick Douglass 6. Douglass reception, scholarship 7. DuBois, The Soul of Black Folk 8. DuBois reception, scholarship 9. Larsen, Passing 10. Larsen reception, scholarship 11. Ellison, Invisible Man 12. Ellison reception, scholarship 13. Morrison, The Song of Solomon 14. Morrison reception, scholarship 15. BLM voices, reception and backlash 			

<p>試験等 16週目に15ページの期末レポート（英語）を提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 毎週の発表・報告に対してフィードバックを行う。期末レポートにコメントをつけて返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎週授業の予習として、課題テキストの精読（6時間）とそれに基づいた発表準備（2時間）を行うことが求められる。</p>
<p>必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>授業で適宜紹介する。</p>
<p>オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。</p>
<p>連絡先 kenji.kihara@tsuda.ac.jp</p>
<p>留意事項 講義での説明等に疑問がある場合は必ず確認すること。</p>

英米文学特殊講義III A		【単位数】	2単位
授業コード	D3120	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	金津 和美		
時間割備考	オンライン		
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
18世紀から19世紀のイギリス詩を研究する。具体的には、ワーズワス、コウルリッジ、ブレイク、パイロン、シェリー、キーツといったイギリス・ロマン主義時代を代表する詩人たちの作品を中心に、詩的技法、イメージの展開、それぞれの詩人の詩的特徴に留意しつつ精読する。また、周縁に位置付けられる作家・詩人の作品にも目を向けて、イギリス・ロマン主義時代の思想的・社会的・文化的背景を確認しながら、学術的視点から文学テキストの分析と考察を行う。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	イギリス・ロマン主義時代の文学について理解を深め、学術的な意見を展開できる。	知識・技能	
2	英語文学研究者として学術的視点から、文学テキストを精緻に分析・考察できる。	思考・判断・表現力	
3	自ら課題を設定し、調査・考察を深めることができる。	主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内でのディスカッションへの参加 (20%)	1/2	
2	期末レポート(50%)	1/2/3	
3	プレゼンテーション (30%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> Introduction: イギリス・ロマン主義の歴史的背景と思想 William Wordsworth ①: "Preface to the Lyrical Ballads" William Wordsworth ②: Lucy poems 等 William Wordsworth ③: "Ode: Intimation and Immortality" 等 Samuel Taylor Coleridge ①: Conversation Poems Samuel Taylor Coleridge ②: "The Rime of the Ancient Mariner" William Blake: from Songs of Innocence and Experience Percy Bysshe Shelley ①: from A Defense of Poetry Percy Bysshe Shelley ②: "To a Skylark" 等 George Gordon Byron: from Childe Harold's Pilgrimage John Keats ①: "Ode to Nightingale" 等 John Keats ②: "The Eve of St. Agnes" イギリス・ロマン主義時代の農民詩人: John Clare, Robert Bloomfield 等 イギリス・ロマン主義時代の女性詩人: Charlotte Smith, Anna Laetitia Barbauld, Hannah More 等 発表と授業講評 			

試験等 期末レポート試験（英文・2000 words程度）を実施する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 1 授業資料を読み、イギリス・ロマン主義時代の歴史と思想について要点を確認する（事後 30分）。 2 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 3 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 4 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 5 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 6 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 7 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 8 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 9 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 10 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 11 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 12 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 13 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 14 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。 15 プレゼンテーションのための準備を行う（事前 30分）。期末レポートのための調査・分析を行う（事後 60分）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業資料および参考文献については授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー 授業終了後、またはメールにて質問を受け付ける。
連絡先 kkanatsu@mail.doshisha.ac.jp
留意事項 受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

英米文学特殊講義III B		【単位数】	2単位
授業コード	D3121	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	金津 和美		
時間割備考	オンライン		
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
現代イギリス詩を研究する。具体的には、エリオットからヒューズ、北アイルランドの詩人ヒーニーにいたる詩的伝統の系譜をたどり、プラスやダフィーなどの女性詩人にも目を向けた詩作品の精読を通して、戦後から21世紀に向けたイギリス詩の詩的潮流の概観を捉える。また、20世紀イギリスの地政学的・社会文化的背景を確認しながら、ポスト・コロニアリズム、フェミニズム、エコクリティシズムなどの批評理論にも留意しつつ、学術的視点から文学テキストの分析と考察を行う。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	イギリス・ロマン主義時代の文学について理解を深め、学術的な意見を展開できる。	知識・技能	
2	英語文学研究者として学術的視点から、文学テキストを精緻に分析・考察できる。	思考・判断・表現力	
3	自ら課題を設定し、調査・考察を深めることができる。	主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内でのディスカッションへの参加 (20%)	1/2	
2	期末レポート(50%)	1/2/3	
3	プレゼンテーション (30%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1 Introduction: 20世紀イギリス詩の歴史的背景と思想 2 T. S. Eliotとモダニズム: "The Love Song of J. Alfred Prufrock" 等 3 W. H. Audenとモダニズム: "September 1st, 1939" 等 4 Auden Group の詩人たち: Louis MacNeice, Cecil Day-Lewis, Stephen Spender 等 5 Philip Larkin とThe Movement: "Toad" 等 6 Ted Hughesと現代詩: Poetry in the Making 7 Ted Hughesと動物詩: from Crow 等 8 Ted Hughesと環境詩: from River 等 9 Seamus Heaneyと北アイルランド ①: from Death of a Naturalist 10 Seamus Heaneyと北アイルランド ②: from Door in to the Dark 11 Seamus Heaneyと北アイルランド ③: from Wintering Out and North 12 現代女性詩人 ①: Sylvia Plath 13 現代女性詩人 ②: Eavan Boland 14 現代女性詩人 ③: Carol Ann Duffy 15 発表と授業講評			

<p>試験等</p> <p>期末レポート試験（英文・2000 words程度）を実施する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>1 授業資料を読み、イギリス・ロマン主義時代の歴史と思想について要点を確認する（事後 30分）。</p> <p>2 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>3 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>4 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>5 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>6 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>7 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>8 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>9 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>10 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>11 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>12 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>13 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>14 授業資料を読み、作品について概要・疑問をまとめ、授業時のディスカッションの準備を行う（事前 30分）。期末レポート・プレゼンテーションのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p> <p>15 プレゼンテーションのための準備を行う（事前 30分）。期末レポートのための調査・分析を行う（事後 60分）。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>授業資料および参考文献については授業内で適宜紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>授業終了後、またはメールにて質問を受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>kkanatsu@mail.doshisha.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。</p>

英米文学特殊講義IVA		【単位数】	2単位
授業コード	D3130	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	里内 克巳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
この授業では、Mark Twain (1835-1910)の後期の代表作品と目されている『Pudd'nhead Wilson』(1894)を取り上げる。比較的短めの長編なので、1学期の授業ですべて読み通す。毎回の授業では、割り当てられた章の内容について受講者全員に質問しつつ確認を行なった後、細部の検討や解釈に関する意見交換へと移る。これが授業の中心的な活動となるが、同時にこの小説の受容史・批評史や、他のトウェイン作品との関連について、教員が受講者に説明を行っていく。			
アクティブラーニングの実施内容		発見学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	文学者トウェインの主要作品を実人生と関連づけながら説明できる。		知識・技能/主体性
2	南北戦争後の19世紀アメリカ文学史の概略や、そのなかでのトウェインの位置について説明できる。		知識・技能/主体性
3	英語で書かれた小説を精読＝通読し、文体上の特徴、叙述の進め方、レトリック上の工夫などについて説明できる。		思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	平常点 (80%) 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。		1/2/3
2	学期末レポート (20%) レポートについては、授業が半分まで進んだ6月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング(日本語ないしは英語)の課題となる予定である。		1/2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1回 インTRODクシヨN			
第2回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.1, 2			
第3回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.3, 4			
第4回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.5, 6			
第5回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.7, 8			
第6回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.9, 10			
第7回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.11, 12			
第8回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.13, 14			
第9回 Twain_Pudd'nhead Wilson_前半部の振り返り			
第10回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.15, 16			
第11回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.17, 18			
第12回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.19, 20			
第13回 Twain_Pudd'nhead Wilson_Ch.21, Conclusion			
第14回 Twain_『Those Extraordinary Twins』			
第15回 授業の振り返り			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、1回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>〈必携書〉 Mark Twain_Pudd'head Wilson_(Penguin Classics) ISBN:0140430407</p> <p>〈参考書〉 マーク・トウェイン（作）村川武彦（訳）『まぬけのウィルソンとかの異形の双生児』 ISBN: 978-4882023227</p>
<p>オフィスアワー 授業終了後、またはメールにより質問を受け付ける。</p>
<p>連絡先 satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp</p>
留意事項

英米文学特殊講義ⅣB		単位数	2単位
授業コード	D3131	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	里内 克巳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
この授業では、アフリカ系アメリカ人作家Charles W. Chesnuttの最後の作品となった『The Quarry』(完成は1928年、出版は1999年)という小説を読む。明るい肌を持ったハンサムな男性が、さまざまな女性たちと関わりをもちつつ、「黒人」の指導者としての道を模索するという筋立ての小説である。20世紀前半のアメリカにおける社会状況を知る上でも興味深いテキストである。本授業では、この小説を丹念に読み、議論することによって、作品が投げかける人種やレイシズム、そしてジェンダーやセクシュアリティといった問題系をめぐる問いかけに対して考えをめぐらせたい。			
アクティブラーニングの実施内容		発見学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	アフリカ系アメリカ人の歴史について概略を説明できる。	知識・技能/主体性	
2	アフリカ系アメリカ文学・文化の特徴(特に20世紀前半)について説明できる。	知識・技能/主体性	
3	英語で書かれた様々なタイプの文学作品を分析し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	平常点(80%) 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。	1/2/3	
2	学期末レポート(20%) レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング(日本語ないしは英語)の課題となる予定である。	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1回	イントロダクション		
第2回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 1, 2		
第3回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 3, 4		
第4回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 5, 6		
第5回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 7, 8		
第6回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 9, 10, 11		
第7回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 12, 13		
第8回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 14, 15,		
第9回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 16, 17, 18		
第10回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 19, 20, 21		
第11回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 22, 23, 24		
第12回	Chesnutt_The Quarry_25, 26, 27		
第13回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 28, 29, 30		
第14回	Chesnutt_The Quarry_Ch. 31, 32, 33		
第15回	授業の振り返り		

試験等
試験のフィードバックの方法
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、1回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>〈必携書〉</p> <p>Charles W. Chesnutt, <i>_The Quarry_</i> (Princeton University Press, 1999) ISBN: 0-691-05996-9</p> <p>〈参考書〉</p> <p>授業時に紹介する</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>授業終了後、またはメールにより質問を受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp</p>
留意事項

英語学言語学特殊講義IA
授業コード D3200
担当者氏名 齋藤 衛

科目ナンバリング

開講年度学期

単位数
2024年度第1期

2単位

時間割備考

授業形態（主） 1 講義

授業形態（副）

担当形態 単独

研究分野（大学院） 英語学言語学

本授業の概要

統語論の極小主義アプローチにおいて、名詞句の分布と移動の性質に説明を与えるラベル付け理論は、中心的な位置を占める。本講義

試験等
学期後半に、受講者と相談の上、論文のテーマを決める。
試験のフィードバックの方法
論文にコメントを付して、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容に関連する研究テーマを設定して、研究を進める。（週6時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義毎に、参考文献を紹介する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語学言語学特殊講義IB
授業コード D3201
担当者氏名 齋藤 衛

科目ナンバリング

開講年度学期

単位数
2024年度第2期

2単位

時間割備考

授業形態（主） 1 講義

授業形態（副）

担当形態 単独

研究分野（大学院） 英語学言語学

本授業の概要

極小主義統語論における句構造形成のメカニズムは、併合とラベリングから成る極めて簡素な構成である。一方で、カートクワイヤー研究

試験等
学期後半に、受講者と相談の上、論文のテーマを決定する。
試験のフィードバックの方法
論文にコメントを付して、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義に関連する研究テーマを設定して、研究を進める。（週6時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義毎に、参考文献を紹介する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語学言語学特殊講義IIA		【単位数	2単位
授業コード	D3210	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
生成文法理論を基盤とした第二言語習得理論の講義を行う。前半では、これまでの第二言語習得研究における成果と課題を把握するため、生成文法のアプローチから論じられた主要な先行研究を読み、当該領域に対する理解を深める。後半では具体的な言語現象として、日本語の削除構文や英語の自他動詞文などを取り上げ、日本語または英語を母語とする第二言語学習者がどのように日英の目標言語を習得するのか、また、どのような文法体系を持っているのかについて、通時的・共時的観点から探っていく。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	本講で扱う主な先行研究の内容を概観し、理解することができる。	知識・技能	
2	本講で扱う主な先行研究の内容に関して建設的批判ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	本講で扱うテーマに関連した研究課題と研究方法を設定することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	発言等による授業への貢献 20%	1/2/3	
2	発言等による授業への貢献 30%	1/2/3	
3	論文 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 第二言語習得理論：生成文法のアプローチ 2. 文法知識について 3. 束縛現象の習得：理論的背景 4. 束縛現象の習得研究 1 5. 束縛現象の習得研究 2 6. 移動の制約：理論的背景 7. 移動現象の習得研究 1 8. 移動現象の習得研究 2 9. 項省略：理論的背景 10. 項省略の習得研究 1 11. 項省略の習得研究 2 12. 自他動詞文の構造：理論的背景 13. 自他動詞文の習得研究 1 14. 自他動詞文の習得研究 2 15. まとめ 			

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解してまとめ、発表の準備を行う（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修登録の前に担当と面談すること

英語学言語学特殊講義II B		【単位数	2単位
授業コード	D3211	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
第二言語習得研究の中でも、語用論的能力の習得に関する講義を行う。特に、中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics) や異文化間語用論 (Cross-cultural Pragmatics) と呼ばれる分野における先行研究を批判的に読むとともに、英語または日本語を母語とする第二言語学習者がどのように日英の目標言語における語用論的能力を習得するのかを探る。さらに、外国語指導において上記の研究がどのように応用できるのかについて、研究・理論と実践の両面から考察する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	現時点での研究テーマに関する応用研究を概観し、理解することができる。		知識・技能
2	当該領域における主な先行研究の内容に関して建設的批判ができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	本講で扱うテーマに関連した研究課題と研究方法を設定することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	発言等による授業への貢献 20%		1/2/3
2	先行研究のまとめと発表 30%		1/2/3
3	論文 50%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間言語語用論とは 2. 語用論の主要な理論 1 3. 語用論の主要な理論 2 4. 中間言語語用論の研究手法 5. 中間言語語用論の研究手法 6. 中間言語語用論のデータ収集 1 7. 中間言語語用論のデータ収集 2 8. 異文化間語用論とは 9. 直接的・間接的特徴 10. 発話行為の普遍性と文化的差異 11. ポライトネスの普遍性と文化的差異 12. 異文化間語用論の研究手法 13. 異文化間語用論のデータ収集 14. 研究発表 15. まとめとフィードバック 			

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解してまとめ、発表の準備をする（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修登録前に担当者と面談すること

英語学言語学特殊講義III A		【単位数】	2単位
授業コード	D3220	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	田中 秀和		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
生成文法の歴史的な経緯を理解するために、五つのブロックに分けて話を進める。変換規則とそれに対する制約から、なぜミニマリストに発展していったのかを理解する。			
Transformational Rules and Earlier Locality Conditions Weeks 1-4 このブロックでは生成文法の目標を再確認し、初期の理論が持つ性質と問題点について理解を深める。			
Toward a Theory of Principles Weeks 5-7 変換規則では構文という概念があったが、これはのちに破棄されるに至った。その理由について理解し、より一般的な理論の利点を考察していく。			
Movement as Last Resort Weeks 8-9 移動規則は何故適用されるのか、という疑問は後のミニマリストの形成に貢献することとなった。格理論が文法理論にもたらしたインパクトを考察する。			
Semantics in Generative Grammar Weeks 10-12 少なくとも話し言葉では「文」とは音と意味が対になったものであるが、意味解釈とはどこで行われるのであろうか？その問題について数量詞、束縛原理などの観点から考察する。			
Empty Categories Weeks 13-15 空範疇原理の研究は文法理論の発展に多大な貢献をしたが、その背景を外観し、ミニマリストへの道筋を示す。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生成文法理論の歴史的な流れを移動現象研究を通して追うことができる。	知識・技能	
2	物事を論理的に説明することができる。	思考・判断・表現力	
3	専門書を英語で読み、論文を英語で書くことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	自らも理論の発展に寄与できる能力を身につけている。	思考・判断・表現力	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的な参加 40%	1/2/3/4	
2	学期末の小論文 60%	1/3/4	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			

授業予定一覧 Transformational Rules and Earlier Locality Conditions Week 1 A-over-A Principle Chomsky (1964) Week 2 Ross' (1967) Island Constraints 1 Week 3 Ross' (1967) Island Constraints 2 Week 4 Subjacency Condition and the notion of Cycle Chomsky (1973) Toward a Theory of Principles Week 5 Move wh: Relativization, Clefts, Comparatives, and Topicalization Week 6 Move NP: Specified Subject Condition and the Tensed S Condition Week 7 Move α : Chomsky (1981) Movement as Last Resort Week 8 Case Theory: NP-Trace, and Exceptional Case Marking Week 9 Wh-trace and Parasitic Gaps Semantics in Generative Grammar Week 10 Logical Form: Some Backgrounds in Logic and Meaning Week 11 Quantifier Raising Week 12 ABC of Binding Theory Empty Categories Week 13 RES(NIC) to Empty Category Principle: Lasnik and Saito (1992) Week 14 Rizzi's (1990) Relativized Minimality Week 15 Toward the Minimalist Program
試験等 学期の最後に小論文を課すが、最終的に小論文を書くために以下のような小課題を課す。 第5週 テーマ届け提出 第10週 問題は何なのかを書いたアブストラクトを提出 1000 words 必要に応じて口頭で発表してもらおう。
試験のフィードバックの方法 授業中に適宜フィードバックをする。 テーマ届け(第5週)、アブストラクト(第10週)に関してはより細かくフィードバックをする。
準備学習(予習・復習)に必要な学修内容・時間 教科書は使わない。各回の論文を予め読むこと。(3時間)
必携書(教科書販売) 書籍名/著者/発売元出版社/価格/ISBN/媒体種別・備考
必携書・参考書(教科書販売以外) 書籍名/著者/発売元出版社/価格/ISBN/媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 hidekazu@okayama-u.ac.jp
留意事項

英語学言語学特殊講義III B		【単位数】	2単位
授業コード	D3221	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	田中 秀和		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
自然言語に見られる削除現象を取り上げ、その性質について生成文法理論の観点から考察していく。その際に、1学期を大まかに以下のブロックに分ける。			
Week 1-2 概論 削除とは何か? その問題点とは何か?			
Weeks 3-7 VP-deletion, Sloppy vs. Strict interpretation, Antecedent Contained Deletion			
Weeks 8-12 Sluicing in English and Japanese			
Weeks 13-14 Argument Ellipsis			
Week 15 Recent Advancements			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	理論に対する見識を深めることができる。	知識・技能	
2	理論を使ってデータを分析する能力を身につけている。	思考・判断・表現力/主体性	
3	英語の専門書を読み、英語で論文を書くことができる。	思考・判断・表現力	
4	論理的な思考力を身につけている。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的な参加 40%	1/2/4	
2	Final Paper (2000 words) 60%	1/2/3/4	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
Week 1 General Introduction: Deletion Rules in English			
Week 2 Licensing Condition Lobeck (1990)			
VP-deletion			
Week 3 VP-deletion Johnson (2001)			
Week 4 Properties of VP-deletion Sag (1976) Chapter 1			
Week 5 Sloppy vs. Strict Reading Sag (1976) Chapter 2			
Week 6 Antecedent Contained Deletion Kennedy (1997)			
Week 7 Gapping Johnson (2009)			
Sluicing			
Week 8 Sluicing Ross (1969)			
Week 9 Sluicing and Logical Form Chung et al. (1991)			
Week 10 Sluicing and Island Repair Merchant (2003)			
Week 11 Sluicing and Identity 1 Chung (2005)			
Week 12 Sluicing and Identity 2 Tanaka (2011)			
Deletion in Japanese			
Week 13 Sluicing Takahashi (1994)			
Week 14 Argument Ellipsis Saito and Murasugi (1990)			
Week 15 Recent Developments			

試験等 最終的に小論文を課すが、その前準備として以下の予定で提出を義務付ける。 week 5 テーマ提出 何が問題なのかを明記すること week 10 1000words程度のアブストラクト week 15 最終課題提出
試験のフィードバックの方法 上記の提出物に対し、それぞれフィードバックをする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業前に各回の論文を読んでおくこと
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 hidekazu@okayama-u.ac.jp
留意事項

英語学言語学特殊講義ⅣA		【単位数	2単位
授業コード	D3230	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	杉崎 敏司		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学・言語学		
本授業の概要			
<p>「ところ」の様々な領域について、その発達には先天的要因（遺伝的要因）と後天的要因（環境的要因）の両者が関与しており、発達の過程はその相互作用によって説明されるべきものであることが明らかにされています。生成文法理論と呼ばれる言語理論では、言語獲得はその典型であり、言語知識は(a)生後まわりの大人から取り込まれる言語経験と(b)遺伝によりヒトに生得的に与えられた母語獲得のための仕組みである「普遍文法」との相互作用により獲得される、と考えられています。この授業では、生成文法理論に基づいた言語獲得研究の成果の一部について理解を深めます。日本語・英語の獲得を中心に議論します。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生成文法理論が仮定する母語獲得のモデルを説明できるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	ヒトに遺伝により生得的に与えられた言語知識が存在するという仮説に対する母語獲得からの証拠を説明できるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	日本語と英語の文構造に見られる主な共通性と、その獲得過程について説明できるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	先行研究で実施された心理実験の問題点を指摘し、それを修正できるようになる。	思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業において実施する、授業内容の理解を確認するための「小テスト」：80%	1/2/3	
2	先行研究の実験の問題点を整理し、新たな実験デザインを提案する、短い「レポート」：20%	1/2/3/4	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<p>[01] 「ところ」の研究としての母語獲得研究 [02] 母語獲得とそれを支える生得的な仕組み [03] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(A)：文の階層性 [04] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(B)：構造依存性（英語のyes/no 疑問文） [05] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(C)：構造依存性（日本語の数量詞遊離） [06] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(D)：移動に対する制約 [07] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(E)：wh疑問文に対する制約 [08] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(F)：「なぜ」に対する制約 [09] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(G)：スルーシングに対する制約 [10] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(H)：縮約に対する制約 [11] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(I)：照応形に対する制約 [12] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(J)：普遍量子子の解釈 [13] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(K)：部分構造に対する意味的制約 [14] 母語獲得におけるUG原理の早期発現(L)：残された課題 [15] まとめ：UGと母語獲得</p>			

試験等 先行研究の実験の問題点を整理し、新たな実験デザインを提案する「レポート」（A4 1ページ程度）を提出していただきます。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
[01] 【予習】 この授業までに、教科書「第1章：母語獲得とそれを支える生得的な仕組み」を読んでおいてください。（約60分） [02] 【予習】 この授業までに、教科書「第1章：母語獲得とそれを支える生得的な仕組み」をもう一度読んでおいてください。（約60分） [03] 【予習】 この授業までに、教科書「第2章：文の階層性」を読んでおいてください。（約60分） [04] 【予習】 この授業までに、教科書「第3章：構造依存性」を読んでおいてください。（約60分） [05] 【予習】 この授業までに、教科書「第3章：構造依存性」をもう一度読んでおいてください。（約60分） [06] 【予習】 この授業までに、教科書「第4章：移動に対する制約」を読んでおいてください。（約60分） [07] 【予習】 この授業までに、教科書「第5章：wh疑問文に対する制約」を読んでおいてください。（約60分） [08] 【予習】 この授業までに、教科書「第6章：『なぜ』に対する制約」を読んでおいてください。（約60分） [09] 【予習】 この授業までに、教科書「第7章：スルーシングに対する制約」を読んでおいてください。（約60分） [10] 【予習】 この授業までに、Crain (1991)の指定された箇所を読んでおいてください。（約60分） [11] 【予習】 この授業までに、Crain (1991)の指定された箇所を読んでおいてください。（約60分） [12] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [13] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [14] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [15] 【予習】 この授業までに、教科書「第8章：言語の異なり方を司る生得的な仕組み：パラメータ」を読んでおいてください。（約60分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 はじめての言語獲得 普通文法に基づくアプローチ／杉崎 鈺司／岩波書店／2900／9784000058391／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で使用する論文を配布します。
オフィスアワー メールでのアポイントメントに基づき、対面またはZoomにて質問などに対応します。
連絡先 sugisaki@kwansei.ac.jp
留意事項

英語学言語学特殊講義IVB		単位数	2単位
授業コード	D3231	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	杉崎 敏司		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学・言語学		
本授業の概要			
<p>「ところ」の様々な領域について、その発達には先天的要因（遺伝的要因）と後天的要因（環境的要因）の両者が関与しており、発達の過程はその相互作用によって説明されるべきものであることが明らかにされています。生成文法理論と呼ばれる言語理論では、言語獲得はその典型であり、言語知識は(a)生後まわりの大人から取り込まれる言語経験と(b)遺伝によりヒトに生得的に与えられた母語獲得のための仕組みである「普遍文法」との相互作用により獲得される、と考えられています。さらに、この「普遍文法」には、言語の可能な異なり方を定める制約が含まれていると仮定されています。この授業では、英語・日本語及びその他の言語の比較と獲得過程の分析を通して、言語の異なり方を司る生得的制約が存在すると考える根拠について理解します。それを通して、英語と日本語の主な共通点と相違点について理解を深めます。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生成文法理論が仮定する母語獲得のモデルを説明できるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	言語の可能な異なり方を司る生得的制約が存在するという仮説に対する母語獲得からの証拠を説明できるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	日本語と英語の文構造に見られる主な相違点と、その獲得過程について説明できるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	日本語や英語を母語とする幼児の自然発話が分析できるようになる。	思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業において実施する、授業内容の理解を確認するための「小テスト」：80%	1/2/3	
2	幼児の自然発話を分析した結果をまとめた、短い「レポート」：20%	1/2/3/4	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<p>[01] 母語獲得とそれを支える生得的な仕組み [02] UG原理の早期発現 [03] 言語の異なり方を司る生得的な仕組み：パラメータ [04] パラメータと母語獲得 (A)：空主語現象 [05] パラメータと母語獲得 (B)：medial-Wh 疑問文 [06] パラメータと母語獲得 (C)：関係詞節 [07] パラメータと母語獲得 (D)：名詞複合 [08] パラメータと母語獲得 (E)：項省略 [09] パラメータと母語獲得 (F)：項省略が満たすべき制約 [10] パラメータと母語獲得 (G)：他動詞HAVEとNEED [11] パラメータと母語獲得 (H)：前置詞残留 [12] パラメータと母語獲得 (I)：wh不定詞節 [13] パラメータと母語獲得 (J)：英語のorと日本語の「か」 [14] パラメータと母語獲得 (K)：英語のonlyと日本語の「だけ」 [15] まとめ：パラメータと母語獲得</p>			

試験等 幼児の自然発話を分析した結果をまとめた「レポート」（A4 1ページ程度）を提出していただきます。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
[01] 【予習】 この授業までに、教科書「第1章：母語獲得とそれを支える生得的な仕組み」を読んでおいてください。（約60分） [02] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分）（約60分） [03] 【予習】 この授業までに、教科書「第8章：言語の異なり方を司る生得的な仕組み：パラメータ」を読んでおいてください。（約60分） [04] 【予習】 この授業までに、教科書「第9章：空主語現象」を読んでおいてください。（約60分） [05] 【予習】 この授業までに、教科書「第10章：medial-Wh 疑問文」をもう一度読んでおいてください。（約60分） [06] 【予習】 この授業までに、教科書「第11章：関係詞節」を読んでおいてください。（約60分） [07] 【予習】 この授業までに、教科書「第12章：名詞複合」を読んでおいてください。（約60分） [08] 【予習】 この授業までに、教科書「第14章：項省略」を読んでおいてください。（約60分） [09] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [10] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [11] 【予習】 この授業までに、教科書「第13章：前置詞残留」を読んでおいてください。（約60分） [12] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [13] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [14] 【予習】 この授業までに、授業で配布する論文を読んでおいてください。（約60分） [15] 【予習】 この授業までに、授業で配布する自然発話データを分析してください。（約60分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 はじめての言語獲得 普遍文法に基づくアプローチ／杉崎 鈺司／岩波書店／2900／9784000058391／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で使用する論文を配布します。
オフィスアワー
メールでのアポイントメントに基づき、対面またはZoomにて質問などに対応します。
連絡先
sugisaki@kwansei.ac.jp
留意事項

IC特殊講義IA		単位数		2単位	
授業コード	D3300	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期	
担当者氏名	桑山 敬己				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション				
本授業の概要					
言語文化に焦点を当てた文化人類学的異文化理解について、古典的研究と最近の研究動向を比較しながら講義する。その際には文化人類学が異文化間コミュニケーション論にどのように応用されたかを検討する。同時に人文社会科学全体におけるフィールドワークの意義について考え、何が文化人類学に特有なのかを見極める。さらに被調査者自身がネットを使って発信する時代にあつて、ネット上の文字・画像資料をどのように扱うかといった、いわばfield NETWORKとも言える仕方について考察する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	文化人類学的観点から国際コミュニケーションを捉えられるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力		
2	授業中の発表と討論を通じて研究者としての心構えができるようになる。		主体性		
3					
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	期末レポート(70パーセント)		1		
2	授業中の発表と討論への貢献度(30パーセント)		2		
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1週 インTRODクシヨン					
第2週 Hall: 1 "Culture as Communication," 8 "The Language of Space"					
第3週 Hall: 11 "Proxemics in a Cross-Cultural Context: Germans, English, and French"					
第4週 Hall: 12 "Proxemics in a Cross-Cultural Context: Japan and the Arab World"					
第5週 Hall: 13 "Cities and Culture," 14 "Proxemics and the Future of Man"					
第6週 桑山 第1章「総論」; Kuwayama, 1 "Natives as Dialogic Partners"					
第7週 桑山 第2章「ネイティブの人類学者」; Kuwayama, 2 "Native Anthropologists"					
第8週 桑山 第3章「人類学の世界システム」; Kuwayama, 3 "The World System of Anthropology"					
第9週 桑山 第4章「柳田國男の世界民俗学再考」; Kuwayama, 4 "Global and National Studies of Folklore"					
第10週 桑山 第5章「日本民俗学の脱国民(脱土着)化にむけて」					
第11週 桑山 第6章「人類学的フィールドワーク再考」					
第12週 桑山 第7章「民族誌の逆さ読み」; Kuwayama, 5 "Ethnographic Reading in Reverse"					
第13週 桑山 第8章「アメリカの教科書の中の日本」; Kuwayama 6 "Representations of Japan in American Anthropology Textbooks"					
第14週 fieldNETWORK論(講義) 1					
第15週 fieldNETWORK論(実習) 2					

試験等 教員と相談のうえ特定のテーマについて期末レポートを作成する。
試験のフィードバックの方法 期末レポートにコメントをつけて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 大学院生に相応しい勉強量を求める。各週とも最低数時間の準備は必要である。桑山『ネイティブの人類学と民俗学』は入手困難なので、図書館（または古書店）で調達すること。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書 Edward Hall, The Hidden Dimension (Anchor Books, 1969) 必携書 桑山敬己『ネイティブの人類学と民俗学』（弘文堂、2008年） 必携書 T. Kuwayama, Native Anthropology (Trans Pacific Press, 2004)
オフィスアワー 後日発表
連絡先 後日発表
留意事項 受講生数にもよるが、各学生は上記著作から数章を選び、学期中に数回の発表を行う。発表の有無にかかわらず、学生は毎週のアサインメントを必ず読むこと。

IC特殊講義IB		【単位数】		2単位
授業コード	D3301	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
英語圏を中心とする海外の日本研究について、日本がどのように描かれてきたかという問題を文化表象の観点から講義する。理論的には、異質の他者の表象をめぐる文化人類学的理論の系譜と、それが人文社会科学全体に占める位置に焦点を当てる。日本の具体的表象については、受講者の関心に沿って特定のテーマ(たとえば衣服や家族)を選び、幕末以降の西洋人による日本像と英語で書かれた日本人自身の自画像を比較検討し、自他の眼差しの交差について考察する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	異文化表象の基礎理論を学ぶことができる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	授業中の発表と討論を通じて研究者としての心構えができるようになる。		主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70パーセント)		1	
2	授業中の発表と討論への貢献度(30パーセント)		2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1週 イン트로ダクション				
第2週 Orientalism 1 "Introduction"				
第3週 Orientalism 2 "Knowing the Oriental"				
第4週 Orientalism 3 "Imaginative Geography and Its Representations"				
第5週 Orientalism 4 "Projects"				
第6週 Orientalism 5 "Crisis"				
第7週 Writing Culture 1 "Introduction"				
第8週 Writing Culture 2 "Introduction"				
第9週 Writing Culture 3 "On Ethnographic Allegory"				
第10週 Writing Culture 4 "The Concept of Cultural Translation"				
第11週 受講者のテーマに沿った発表 1				
第12週 受講者のテーマに沿った発表 2				
第13週 受講者のテーマに沿った発表 3				
第14週 受講者のテーマに沿った発表 4				
第15週 受講者のテーマに沿った発表 5				

試験等
教員と相談のうえ特定のテーマについて期末レポートを作成する。
試験のフィードバックの方法
期末レポートにコメントをつけて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
大学院生に相応しい勉強量を求める。各週とも最低数時間の準備は必要である。Orientalism, Writing Culture はともに訳書があるが、訳文の質に問題があるので薦めない。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書 Edward Said, Orientalism (Penguin Modern Classics, 2003. Orig. 1978)
必携書 James Clifford and George Marcus, eds., Writing Culture: The Poetics and Politics of Ethnography (University of California Press, 2010. Orig. 1986)
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
受講生数にもよるが、各学生は上記著作から数章を選び、学期中に数回の発表を行う。発表の有無にかかわらず、学生は毎週のアサインメントを必ず読むこと。

IC特殊講義IIA		【単位数】		2単位
授業コード	D3310	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	植野 貴志子			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
<p>本講では、国境を越える人の移動の加速化によって生じる国民国家、民族、文化の関係の再編成について検討する。具体的には、文化人類学、社会学、人文地理学における人の国際移動に関する近年の研究動向について把握し、移民現象の最前線で生じる異文化間コミュニケーション、社会的紐帯やコミュニティのありようについて考察する。シチズンシップ、トランスナショナリズム、モビリティに焦点をあて、先行研究を批判的に検討し、その理論的展開を試みる。</p>				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	文化人類学、社会学、人文地理学における人の国際移動に関する研究動向を理解することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	当該領域における重要な先行研究に対して批判的検討、および、理論的展開が行える。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での発表 (50%)		1/2	
2	タームペーパー (50%)		1/2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文献講読と批評：シチズンシップ (1) 3. 文献講読と批評：シチズンシップ (2) 4. 文献講読と批評：トランスナショナリズム (1) 5. 文献講読と批評：トランスナショナリズム (2) 6. 文献講読と批評：モビリティ (1) 7. 文献講読と批評：モビリティ (2) 8. 中間まとめ 9. 移民と異文化間コミュニケーション (1) 10. 移民と異文化間コミュニケーション (2) 11. 社会的紐帯、コミュニティ (1) 12. 社会的紐帯、コミュニティ (2) 13. 国民国家、民族、文化の関係の再編成 (1) 14. 国民国家、民族、文化の関係の再編成 (2) 15. 総括と講評 				

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題となる論文を精読し、理解しておくこと（3時間）。発表担当の回は、レジュメを作成すること（5時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜指示する。
オフィスアワー
質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

IC特殊講義IIB		【単位数】		2単位
授業コード	D3311	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	植野 貴志子			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
本講では、多文化状況における共生、異文化＝他者理解に関するテーマについて、英語圏の多文化主義 (multiculturalism) に関する主要な先行研究を取り上げ、その理論的枠組みと論点を把握する。英語圏の多文化主義に関する民族誌 (ethnography) を精読し、質的調査方法とフィールドワーク、およびエスノグラフィックな研究手法とその記述によって明らかにされる多文化主義の社会文化の課題を検討するとともに、方法論としてのエスノグラフィーを批判的に考察する。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	英語圏の多文化主義に関する主要な先行研究を概観し、その理論的枠組みと論点を理解することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	質的調査方法、フィールドワーク、エスノグラフィックな研究手法を含む方法論を把握し、批判的検証が行える。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業での発表 (50%)		1/2	
2	タームペーパー (50%)		1/2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文献購読：英語圏の多文化主義 (1) 3. 文献講読：英語圏の多文化主義 (2) 4. 文献講読：英語圏の多文化主義 (3) 5. まとめ 6. 質的調査方法 (1) 7. 質的調査方法 (2) 8. フィールドワークの方法 (1) 9. フィールドワークの方法 (2) 10. エスノグラフィックな研究手法 (1) 11. エスノグラフィックな研究手法 (2) 12. まとめ 13. 多文化主義の社会文化の課題 (1) 14. 多文化主義の社会文化の課題 (2) 15. 総括と講評 				

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題となる論文を精読し、理解しておくこと（3時間）。発表担当の回は、レジュメを作成すること（5時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で適宜紹介する。
オフィスアワー
質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

IC特殊講義III A		単位数		2単位
授業コード	D3320	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
<p>本講は、これまで議論されてきた地球市民教育(global citizenship education)の定義や枠組みについて学ぶとともに、外国語としての英語教育における位置づけについて把握し、地球市民教育のもつ意義と、「地球市民であること」の意味を探っていく。特に、地球市民教育の理論的支柱となるコスモポリタニズムに関する先行研究について把握し、その研究動向と論点を整理する。さらに、パウロ・フレイレの教育思想、ベル・フックスのフェミニズム論からの地球市民教育論の展開について批判的に考察する。</p>				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	地球市民教育における概念を理解した上で、英語教育における意義を論じることができる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への貢献 20%		1	
2	発表 30%		1	
3	論文 50%		1	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業			英語	
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is global citizenship? 1 3. What is global citizenship? 2 4. Cosmopolitanism 1 5. Cosmopolitanism 2 6. Cosmopolitanism 3 7. Summary and Discussion 8. Global Englishes 1 9. Global Englishes 2 10. Freire's critical pedagogy 1 11. Freire's critical pedagogy 2 12. Feminism and global citizenship 1 13. Feminism and global citizenship 2 14. Summary and Discussion 15. Presentation 				

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解しまとめて発表する準備をする（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー
授業開始時に提示
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

IC特殊講義IIIB		【単位数】		2単位
授業コード	D3321	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
IIIAの内容を踏まえ、地球市民教育において何を教え、学び、評価されるべきなのか、その具体的な教育内容と評価方法を探る。グローバルコンピテンシーという観点から、探求型・プロジェクト型学習やサービス・ラーニングの手法を取り入れた教育法の導入が教育学全般、(外国語としての)英語教育、および地球市民教育に与えた影響について、その可能性と課題を総合的に検討する。さらに、地球市民としてのベストプラクティスとは何か、その理念と実践の両側面から考察する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	地球市民教育の方法と評価について理解し判断できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への貢献 20%		1	
2	発表 30%		1	
3	論文 50%		1	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業			英語	
授業予定一覧				
1. Introduction 2. Global competency: definition 3. Global competency: review 1 4. Global competency: review 2 5. Educating for global competence 1 6. Educating for global competence 2 7. Educating for global competence 3 8. Summary and Discussion 9. Global competence: method 1 10. Global competence: method 2 11. Global competence: method 3 12. Best practices 1 13. Best practices 2 14. Presentation 15. Summary and Discussion				

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解してまとめ、発表の準備をする（3時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー
初回の授業で提示
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

IC特殊講義IVA		【単位数】		2単位
授業コード	D3330	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	Bradley, William			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
This course will focus on the study of human diversity, a major theme in anthropological research and as the basis of contemporary modes of communication. We review past discussions of diversity as a basic concept, for example cultural relativism developed by Boasian anthropology and examine how human diversity is treated and analyzed in recent anthropological discussions on ethnicity, race, gender, and other aspects as a central theme. Furthermore, the significance and challenges of research on human diversity will be examined in terms of its impact on the societies and cultures both in Japan and in the English speaking world.				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students will come to understand one of the key concepts of cultural anthropology both historically and in contemporary research. Through exploring the meaning of diversity, we debate its current usefulness (and contrastingly its weaknesses) both for research and in		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	Students will learn about the historical versions of culture and its relation to diversity in cultural anthropology as well as considering its continued use in research in the present time.		知識・技能/思考・判断・表現力	
3	Students will analyze some key debates related to diversity through looking at contrasting perspectives of rationales tied to universal values and norms versus the particularized ideas of various groups in a given society.		知識・技能/思考・判断・表現力	
4	Students will choose a particular theme (either related to a group's identity based on ethnicity, gender, or some other characteristic) or a social problem which includes overlapping and conflicting identities and norms in order to research and examine the concepts		知識・技能/思考・判断・表現力	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	Preparing background readings for class and being ready to discuss them. (30%)		1/2/3/4	
2	One or more presentations of readings and a final presentation of the theme that students choose for the course. (30%)		1/2/3/4	
3	A final written paper (this will be outlined in one of the first classes). (40%)		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業			This course is taught in English and all readings will be in English.	
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. Outline and Explanation of the Course 2. Overview of Human Diversity 3. Development of Cultural Relativism in Anthropology 4. Development of Cultural Relativism in Anthropology (Boas and Boasians) 5. Diversity and Ethnic Studies in the 1960s and 1970s 6. Contestations over Diversity in the Contemporary World 7. Contestations over Diversity in the Contemporary World 8. Case Studies of Identity in North America 9. Case Studies of Identity in North America 10. Case Studies of Identity in Europe 11. Case Studies of Identity in Europe 12. Gender and Anthropology 13. Multiculturalism and Anthropology 14. Student Presentations 15. Discussion of Final Paper and Summary 				

試験等
A final written report is required. The contents will be discussed in one of the first classes.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given on presentations and all written assignments.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Background readings for most of the classes (the amount of time will vary according to the reading). Preparation for some presentations and a final report (this will involve several hours of work in each case).
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Reference books and readings will be provided by the professor according to the abilities and interests of the students.
オフィスアワー
連絡先
william@world.ryukoku.ac.jp
留意事項

IC特殊講義IVB		【単位数】		2単位
授業コード	D3331	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	Bradley, William			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
This course will focus on comparative/international educational research and will examine the formulation of international educational models and policy developments in a variety of countries and regions, including English-speaking countries. Discussion will focus on global educational models, policy formulation, and transnational educational organizations that affect education at various scales from the immediate local to the global realm. In addition, we will discuss the evaluation and challenges of how the introduction of global educational models is having an effect on the actual sites and practices of education.				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	Students will learn about the fields of comparative and international education and their relation to policy developments both internationally and in Japan as well as understanding research in these fields.			知識・技能/思考・判断・表現力
2	Students will analyze some particular policy initiatives and implementation and understand different perspectives of how these policies are formulated, debated, and evaluated.			知識・技能/思考・判断・表現力
3	Students will choose a particular theme (either related to a problem in education) or a specific level of education (e.g. higher education) in order to research and examine the concepts of comparative and international education introduced in the course.			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	Preparing background readings for class and being ready to discuss them. (30%)			1/2
2	One or more presentations of readings and a final presentation of the theme that students choose for the course. (30%)			1/2
3	A final written paper (this will be outlined in one of the first classes). (40%)			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業		This course is taught in English and all readings will be in English.		
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. Outline and Explanation of the Course 2. Overview of Frameworks for Understanding Comparative and International Education 3. Educational Policy Definitions 4. Educational Policy Examples 5. Transnational Educational Organizations (OECD, the World Bank, and Others) 6. Education and Large Scale Tests (PISA) 7. Education and Large Scale Tests (PISA and Other Tests) 8. Student Mobility (Study Abroad Systems) 9. Higher Education and Competitive Systems 10. Ranking Systems of Higher Education 11. Cross-Border Education (Institutional Developments) 12. Cross-Border Education (Online Systems) 13. Developments in Japanese Education 14. Student Presentations 15. Discussion of Final Paper and Summary 				

試験等
A final written report is required. The contents will be discussed in one of the first classes.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given on presentations and all written assignments.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Background readings for most of the classes (the amount of time will vary according to the reading). Preparation for some presentations and a final report (this will involve several hours of work in each case).
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Reference books and readings will be provided by the professor according to the abilities and interests of the students.
オフィスアワー
連絡先
william@world.ryukoku.ac.jp
留意事項

課題研究IA		単位数		2単位
授業コード	D3400	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
博士論文の執筆に向けて、修士論文の成果を踏まえながら、各自の研究に必要な作家の作品や伝記、書簡などの一次資料やその背景をなす文化的事象をも含む先行研究を網羅的に深く読み込む中で、博士論文において取り扱う作家や作品、テーマや方法論などに関する問題意識を育成し、研究計画書の作成を目指す。同時に、英文による基礎的な研究論文の組み立て方や、口頭発表の方法、さらに研究倫理に関する意識を高め、博士論文のテーマや方法論を絞り込めるように指導する。なお、夏休みの間に年次報告の具体的な内容を決定し、準備を進める。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。		思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 (研究計画書、参考文献リストの作成を含む) 20%		1/2/3/4	
2	プレゼンテーション(口頭発表) 20%		1/2/3/4	
3	期末レポート(書評論文) 60%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 修士論文の概要発表 論文作成の方法(1): テーマの設定と先行研究の調査 論文作成の方法(2): 文献リストの作成 論文作成の方法(3): アウトラインの作り方 論文作成の方法(4): 論文、口頭発表の様式 博士論文の研究計画書作成 主要文献リストの作成 アプローチの方法(1): 批評理論講読 アプローチの方法(2): 批評理論講読 アプローチの方法(3): 批評理論講読 文献の評価(1): 主要文献の講読 文献の評価(2): 主要文献の講読 文献の評価(3): 主要文献の講読 主要文献の書評及び、年次報告論文のテーマ設定 				

試験等
16週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanaba等を通して、必要なフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p><予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献の検索を行う（90分）</p> <p><復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518は各自購入すること。</p> <p>その他の参考書は、授業中に適宜指示、配布する。</p>
オフィスアワー
随時。授業の前後、メール等で質問、相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメール等で予約をとってください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<p>博士課程での研究は、各自が選択した作家、作品、テーマに関する自主的な研究が尊重されるので、研究計画に従って積極的に取り組んでほしい。</p> <p>基礎的な研究姿勢や、論の組み立て方について、授業中に与えられた知識や方法についても疑問点があれば、積極的に質問、相談をすることで、それを解消するようにしてほしい。</p>

課題研究IB		【単位数】		2単位
授業コード	D3401	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
博士論文の執筆に向けて、引き続き主要な一次資料や先行論文を網羅的に深く読み込みながら、自身の目指す研究方法やテーマが当該領域においてどのように位置づけられ、どのような意義を持つのかを明確に意識し、その結果として自身の研究の独自性を高められるよう指導を行う。さらに、IAで学んだ研究論文の執筆方法や口頭発表の方法を踏まえ、それらを実践する形で、IAで絞り込んだ現時点でのテーマや方法に従って、博士論文の一端となる1年次の報告論文を執筆する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 20%		1/2/3/4	
2	プレゼンテーション 20%		1/2/3/4	
3	年次報告論文 60%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年次報告のテーマ及び概要報告 2. 参考文献表の作成 3. アウトラインの作成 4. 第一回中間発表(日本語) 5. 口頭発表と日本語及び英語論文の文体 6. 引用の活用方法 7. 第2回中間発表 8. 分析結果の吟味 9. 主要参考文献の評価 10. 第3回中間発表 11. 序論 12. 結論 13. 論文全体の見直し 14. 博士論文執筆計画の見直し 15. まとめ 				

試験等 16週目に年次報告論文を提出する
試験のフィードバックの方法 適宜manaba等を通してフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 <予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行う（90分） <復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518 各自で授業までに購入すること。ただし、第1期に課題研究IAで購入の場合は、同じなので購入の必要はない。 <参考書>その他の参考書は、適宜授業中に指示、配布する。
オフィスアワー 随時。授業の前後、あるいはメール等で質問や相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメールで予約してください。
連絡先 niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項 博士課程での研究は、各自が選択した作家、作品、テーマに関する自主的な研究が尊重されるので、研究計画に従って積極的に取り組んでほしい。基礎的な研究姿勢や、論の組み立て方について、授業中に与えられた知識や方法について疑問点があれば、放置するのではなく、積極的に質問、相談をすることで、それを解消するようにしてほしい

課題研究IA		単位数		2単位
授業コード	D3405	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	齋藤 衛			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英語学言語学			
本授業の概要				
言語理論領域における研究指導を行う。言語の研究を中心として、古代から現在に至る人文学史を概観し、規則の体系から規則群を説明する原理とパラメータの体系へ、そして原理群の説明を目標とするミニマリストアプローチへと繋がる言語理論の発展の過程を詳細に検討する。その上で、優れた論文を参考にしつつ、統語論における現時点の主要な研究課題について共に考える。受講者は、博士後期課程で主に追求するトピックを選択して研究を開始し、研究計画書を作成する。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	理論言語学の目的と歴史を踏まえて、自らの研究課題を設定し、研究を遂行することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	論文 (80%)			1
2	授業時のディスカッションへの貢献 (20%)			1
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 人文学史の中の言語学 2. 言語学史 (1) 3. 言語学史 (2) 4. 言語学史 (3) 5. 句構造理論 6. 格理論 7. 束縛理論 8. 派生の経済性 9. ラベル付け理論 10. フェイズ理論 11. 日英語比較統語論の課題 (1) 12. 日英語比較統語論の課題 (2) 13. 日英語比較統語論の課題 (3) 14. 受講者による研究発表 (1) 15. 受講者による研究発表 (2)				

試験等
論文 (10枚程度)
試験のフィードバックの方法
アポを設定して、コメントを伝える。
準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容・時間
授業で紹介する関連文献を読み、自らの研究テーマに沿った調査、研究を行う。(週10時間)
必携書 (教科書販売)
書籍名 / 著者 / 発売元出版社 / 価格 / ISBN / 媒体種別・備考
必携書・参考書 (教科書販売以外)
書籍名 / 著者 / 発売元出版社 / 価格 / ISBN / 媒体種別・備考
授業時に紹介する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IB		単位数		2単位
授業コード	D3406	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	齋藤 衛			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英語学言語学			
本授業の概要				
言語理論領域における研究指導を行う。統語論における主要な理論的問題と関連する言語現象を詳細に検討する。特に、比較統語論を基礎とした普遍文法の研究に焦点を当てる。受講者が選択した研究テーマに関連させる形で、名詞句の分布と移動の性質を説明するラベル付け理論、移動と照応形束縛の局所性を説明するフェイズ理論について概観し、日英語の相違を中心に据えて、言語間変異をどのように捉えることができるかを検討する。これと並行して、受講者は、各自の研究成果を発表し、フィードバックを得て研究論文を完成させる。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	比較統語論の重要な研究課題に貢献するために、自らの研究テーマを設定し、研究を遂行することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	論文(80%)		1	
2	授業のディスカッションへの貢献(20%)		1	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<A. ラベル付け理論と日英語の相違> 1. 序 2. 句構造 3. 文法格(1) 4. 文法格(2) 5. 空代名詞 6. 項省略 7. 複合述部 8. 名詞修飾節 <B. フェイズ理論と日英語の相違> 9. 序 10. 照応形束縛(1) 11. 照応形束縛(2) 12. 残留部移動 <C. パラメターの形式> 13. ラベル付けにおける言語間変異 14. フェイズの定義における言語間変異 15. 統語理論の構成				

試験等
論文 (20枚程度)
試験のフィードバックの方法
アポを設定して、コメントを伝える。
準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容・時間
授業で紹介する重要な文献を読み、同時に自らの研究を進める。(週10時間)
必携書 (教科書販売)
書籍名 / 著者 / 発売元出版社 / 価格 / ISBN / 媒体種別・備考
必携書・参考書 (教科書販売以外)
書籍名 / 著者 / 発売元出版社 / 価格 / ISBN / 媒体種別・備考
授業時に紹介する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IA		【単位数】		2単位
授業コード	D3410	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英語学言語学			
本授業の概要				
<p>本講では、生成文法もしくは語用論を理論的基盤とした第二言語習得領域における研究指導を行う。修士論文での研究成果と残された課題を踏まえて研究計画書を作成し、第二言語習得研究に必要な理論を概観して理解を深める。その後、当該領域における主な先行研究の内容に関して建設的批判ができるように文献を読み込んでいき、今後の研究に必要な問題意識と創造的な研究への素地(研究倫理・発表スキルと論文執筆の基礎)を育む。博士論文で扱うテーマに関連した研究課題を決定し、研究に必要な方法論を学ぶ。</p>				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	現時点での研究テーマに関する理論を概観し、理解することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力
2	当該領域における主な先行研究の内容に関して建設的批判ができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	博士論文で扱うテーマに関連した研究課題を設定することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	発言等による授業への貢献 20%			1/2/3
2	先行研究のまとめと発表 30%			1/2/3
3	書評論文 50%			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間指導計画について 2. 研究テーマの設定と理論研究の主要文献リストの作成 3. 先行研究(理論)の批評(1) 4. 先行研究(理論)の批評(2) 5. 研究計画書作成について 6. 先行研究(理論)の批評(3) 7. 先行研究(理論)の批評(4) 8. 理論的基盤のまとめ1を発表 9. 先行研究(理論)の批評(5) 10. 先行研究(理論)の批評(6) 11. 先行研究(理論)の批評(7) 12. 先行研究(理論)の批評(8) 13. 理論的基盤のまとめ2を発表 14. 書評論文の書き方について 15. 研究課題の設定と応用研究の主要文献リストの作成 				

試験等 書評論文
試験のフィードバックの方法 書面と口頭によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる（4時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー By appointment
連絡先 mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IB		【単位数】		2単位
授業コード	D3411	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英語学言語学			
本授業の概要				
<p>課題研究IAで得られた第二言語習得領域における言語・習得理論に関する知識ならびに方法論をもとに、第二言語習得研究の諸問題について詳細な検討を行う。特に、博士論文作成に関わるテーマに必要な先行研究を網羅的に読みこなし、自身の研究テーマがこの領域でどのような位置付けとなるかを把握する。さらに、IAで選んだ研究課題に関連する言語現象を取り上げ、適切な研究方法を検討した後、予備調査または小規模な実験を行う。学内での発表ののち、そこで得られたフィードバックを参考にして研究論文としてまとめる。</p>				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	現時点での研究テーマに関する応用研究を概観し、理解することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力
2	当該領域における主な先行研究の内容に関して建設的批判ができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	博士論文で扱うテーマに関連した研究課題を決定し、研究に必要な方法論を見出すことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1				
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の見直しと応用研究の主要文献リストの作成 2. 先行研究(応用)の批評(1) 3. 先行研究(応用)の批評(2) 4. 先行研究(応用)の批評(3) 5. 応用研究のまとめ1を発表 6. 先行研究(応用)の批評(4) 7. 先行研究(応用)の批評(5) 8. 先行研究(応用)の批評(6) 9. 応用研究のまとめ2を発表 10. 理論・応用研究のまとめと研究課題の確認 11. 研究・調査方法と研究項目の設定 12. 予備調査の実施方法 13. 予備調査の結果と分析 14. 中間発表について 15. 中間発表のフィードバック 				

試験等 研究論文
試験のフィードバックの方法 口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる（4時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー By appointment
連絡先 mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IA		単位数		2単位
授業コード	D3415	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
本課題研究では、海外(特に英語圏)における日本像を文化表象の観点から考察する。理論的にはオリエンタリズム批判以降の文化人類学を中心とし、方法論的には必ずしもフィールドワークにこだわらず、広く人文社会科学の諸分野から最適なものを選ぶ。時代的には幕末以降の日本論を取り上げるが、受講者は修士論文の成果を踏まえた上で、どの時代に焦点を当てるかの目星を付ける。これらの点について、受講者は指導教員と十分に協議を行い、博士論文執筆に向けた研究計画書を作成・提出する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	受講生は修士論文の成果を踏まえたうえで、幕末以降のどの時代の日本論に焦点を当てるかの目星を付けることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	プロフェSSIONナルを目指す者として主体的に研究することを学ぶことができる。		主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70パーセント)		1	
2	授業中の発表(30パーセント)		2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1週 イン트로ダクション				
第2週 渡辺 第1章「ある文明の幻影」; 第2章「陽気な人びと」(英語版の同二章)				
第3週 渡辺 第3章「簡素とゆたかさ」; 第4章「親和と礼節」(英語版の同二章)				
第4週 渡辺 第5章「雑多と充溢」; 第6章「労働と身体」(英語版の同二章)				
第5週 渡辺 第7章「自由と身分」; 第8章「裸体と性」(英語版の同二章)				
第6週 渡辺 第9章「女の位相」; 第10章「子どもの樂園」(英語版の同二章)				
第7週 渡辺 第11章「風景とコスモス」; 第12章「生類とコスモス」(英語版の同二章)				
第8週 渡辺 第13章「信仰と祭」; 第14章「心の垣根」(英語版の同二章)				
第9週 李ほか 序章「文化人類学の新たなはじまりに向けて」; 第1章「フィールドはいかに選択されるのか」				
第10週 李ほか 第2章「少女の瞳と少年のおちんちん」; 第3章「表象の彼方へ」				
第11週 李ほか 第4章「「マンチャ-人類学」への第1歩」; 第5章「「難民」を通じて考える」				
第12週 李ほか 第6章「文化人類学者はフィールドで病気になる」; 第7章「邂逅と往還のフィールドワーク」				
第13週 李ほか 第8章「「わたしたちのもの」は誰のもの」; 第9章「フィールドにおける「超常性」のとなえかた」				
第14週 李ほか 第10章「私とフィールド、そして文化人類学」; 第11章「フィールドが被災地になる時」				
第15週 李ほか 第12章「調査の終わり」とハードボイルド・ライティングカルチャー」				

<p>試験等</p> <p>教員と相談のうえ特定のテーマについて期末レポートを作成する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>期末レポートにコメントを付けて返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>博士課程の学生に相応しい勉強量を求める。各週とも5時間の準備は必要である。発表の有無にかかわらず、学生は毎週のアサインメントを必ず読むこと。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書 渡辺京二『逝きし世の面影』（平凡社、2005年）</p> <p>必携書 Kyoji Watanabe, Remnants of Days Past: A Journey through Old Japan（出版文化産業振興財団、2020年）</p> <p>必携書 李仁子・金谷美和・佐藤知久（編）『はじまりとしてのフィールドワーク』（昭和堂、2008年）</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>後日発表</p>
<p>連絡先</p> <p>後日発表</p>
<p>留意事項</p> <p>受講生数にもよるが、各学生は上記著作から数章を選び、学期中に数回の発表を行う。発表者は少しでも渡辺/Watanabe で言及されている原典に目を通すこと。</p>

課題研究IB		【単位数】		2単位
授業コード	D3416	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
課題研究IAを受けて、受講者は文化人類学を中心とする表象理論の研究を進め、自ら選択または編み出した方法論の意義を人文社会科学全体の中に位置づける。同時に、幕末から明治中期までの英語圏における代表的日本論の理解を深め、変化と連続という観点から現代との関連性を問う。また、当時の作品を民族誌(エスノグラフィ)として捉え、その限界と可能性を明らかにする。受講者は以上に関する発表をまず学内で行い、そこで得た知見を活用して報告書を作成し、博士論文執筆の基礎を築く。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	文化表象に関する現代の古典の精読を通じて、この分野の根底を理解できるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	プロフェSSIONナルを目指す者として主体的に研究することを学ぶことができる。		主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70パーセント)。		1	
2	授業中の発表(30パーセント)。		2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1週 インTRODクシヨN 第2週 西川1「日常の中の世界感覚」「ヨーロッパのオリENT観」 第3週 西川2「日本における文化受容のパターN」「文明と文化」 第4週 西川3「文化の国境を越えるために」 第5週 Morse 1: I Japan in 1877 第6週 Morse 2: VIII Life in Tokyo 第7週 Morse 3: XII Yezo, the Northern Island; XIII The Ainu 第8週 Morse 4: XXIII Customs and Superstitions; XXV Tokyo Notes 第9週 Morse 5: XXVI Falconry and Other Matters 第10週 小田「質的研究とエスノグラフィ」 第11週 Sims & Stephens 1 Fieldwork and Ethnography 第12週 Sims & Stephens 2 Fieldwork and Ethnography 第13週 佐藤1「フィールドワークとは何か?」 第14週 佐藤2「フィールドワークとは何か?」 第15週 報告書作成に向けて				

試験等 教員と相談のうえ期末レポートを作成する。
試験のフィードバックの方法 期末レポートにコメントを付けて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 博士課程の学生に相応しい勉強量を求める。各週とも5時間の準備は必要である。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書 西川長夫『国境の越え方：国民国家論序説（増補）』（平凡社ライブラリー、2001年） 必携書 E. Morse, Japan Day by Day (orig., 1971) 必携書 小田博志「質的研究とエスノグラフィー」、波平恵美子（編）『文化人類学（第4版）』（医学書院、2021年） 必携書 Martha Sims & Marine Stephens, Living Foklore (2nd ed.) (Utah State University Press, 2011) 必携書 佐藤郁哉「フィールドワークとは何か?」、『フィールドワーク 増訂版』（新曜社、2006年）
オフィスアワー 後日発表
連絡先 後日発表
留意事項 受講生数にもよるが、各学生は上記著作から数章を選び、学期中に数回の発表を行う。発表の有無にかかわらず、学生は毎週のアサインメントを必ず読むこと。

課題研究IA			【単位数	2単位
授業コード	D3420	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	木原 健次			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
米文学とその背景をなす社会や文化に関する博士論文の執筆を目指して、研究指導を行う。博士論文で取り上げるべき作家や文学的文化的事象に関する一次資料や先行論文を概観しながら、修士論文における自身の方法論やテーマの意義を見直し、博士論文で取り上げるべきテーマや方法論を絞り込んで、研究計画書を作成する。さらに、英語論文の書き方や、論文執筆の様式、口頭発表の方法やマナー、研究倫理など、研究を進めていく上で必要な基礎的な事柄についての知識を得て、自立した研究者としての意識を確立し、以後の研究をスムーズに進められるように導く。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。		思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 (研究計画書、参考文献リストの作成を含む) 20%		1/2/3/4	
2	プレゼンテーション(口頭発表) 20%		1/2/3/4	
3	期末レポート(書評論文) 60%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 修士論文の概要発表 論文作成の方法(1): テーマの設定と先行研究の調査 論文作成の方法(2): 文献リストの作成 論文作成の方法(3): アウトラインの作り方 論文作成の方法(4): 論文、口頭発表の様式 博士論文の研究計画書作成 主要文献リストの作成 アプローチの方法(1): 批評理論講読 アプローチの方法(2): 批評理論講読 アプローチの方法(3): 批評理論講読 文献の評価(1): 主要文献の講読 文献の評価(2): 主要文献の講読 文献の評価(3): 主要文献の講読 主要文献の書評及び、年次報告論文のテーマ設定 				

試験等
16週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanaba等を通して、必要なフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p><予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行う（90分）</p> <p><復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518は各自購入すること。</p> <p>その他の参考書は、授業中に適宜指示、配布する。</p>
オフィスアワー
初回の授業で提示
連絡先
kenji.kihara@tsuda.ac.jp
留意事項

課題研究IB		【単位数】		2単位
授業コード	D3421	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	木原 健次			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
米文学とその背景をなす社会や文化に関する博士論文の執筆を目指して、研究指導を行う。主な一次資料や先行論文を継続して読み、それらを詳細に検討する中で、IAで絞り込んできた研究方法やテーマの当該領域における位置づけや意義を考察し、実現性と独自性を兼ね備えた研究テーマが設定できるように指導する。さらに、IAで学んだ研究論文の執筆方法や様式、口頭発表の方法などを踏襲する形で、現在設定しているテーマに沿った報告論文を執筆し、博士論文執筆の基盤を確かなものとするを旨とする。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 20%		1/2/3/4	
2	プレゼンテーション 20%		1/2/3/4/5	
3	年次報告論文 60%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年次報告のテーマ及び概要報告 2. 参考文献表の作成 3. アウトラインの作成 4. 第一回中間発表 5. 口頭発表と日本語及び英語論文の文体 6. 引用の活用方法 7. 第2回中間発表 8. 分析結果の吟味 9. 主要参考文献の評価 10. 第3回中間発表 11. 序論 12. 結論 13. 論文全体の見直し 14. 博士論文執筆計画の見直し 15. まとめ 				

試験等
16週目に年次報告論文を提出する
試験のフィードバックの方法
適宜manaba等を通してフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p><予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行う（90分）</p> <p><復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518 各自で授業までに購入すること。ただし、第1期に課題研究IAで購入の場合は、同じなので購入の必要はない。</p> <p><参考書>その他の参考書は、適宜授業中に指示、配布する。</p>
オフィスアワー
初回の授業で提示
連絡先
kenji.kihara@tsuda.ac.jp
留意事項

課題研究IA		単位数		2単位
授業コード	D3425	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	植野 貴志子			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
グローバルな人の国際移動に伴う異文化＝他者理解と国際コミュニケーションに関する文化人類学的研究の研究指導を行う。研究テーマと研究対象となる国や地域を絞り込み、研究計画を策定する。研究テーマについて、文化人類学に加え、社会学、人文地理学、歴史学、地域研究など関連分野を含め先行研究を幅広くレビューし、理論的枠組みと論点を整理する。先行研究の成果と問題点をふまえ、具体的な研究課題を設定し、方法論を検討する。研究の過程で必要な成果発表を含め、博士論文を執筆する上で必要となる研究倫理の指導を行う。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	文化人類学、社会学、その他関連分野の重要な先行研究における理論的枠組み、方法論、議論を把握し、説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	研究テーマ、および、研究対象となる国や地域を絞り込み、研究計画を立てることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での発表 (50%)		1/2	
2	タームペーパー (50%)		1/2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. イン트로ダクション 2. 文献講読と批評：文化人類学 (1) 3. 文献講読と批評：文化人類学 (2) 4. 文献講読と批評：社会学 5. まとめ (1) 6. 文献講読と批評：人文地理学 (1) 7. 文献講読と批評：人文地理学 (2) 8. 文献講読と批評：歴史学 9. まとめ (2) 10. 文献講読と批評：地域研究 (1) 11. 文献講読と批評：地域研究 (2) 12. 文献講読と批評：方法論 13. まとめ (3) 14. 個人面談 15. フィードバック				

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題となる論文を精読し、理解しておくこと（3時間）。発表担当の回には、レジユメを作成すること（5時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
初回授業で指示する。
オフィスアワー
質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IB		単位数		2単位
授業コード	D3426	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	植野 貴志子			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
課題研究IAで設定した研究課題について、明らかにすべき問いに対するアプローチと方法論について、引き続き検討を重ねていく。人の国際移動に関する先行研究の詳細な批判的検討を行いフレームワークと論点の整理を行う。さらに、長期調査に向けて文化人類学のフィールドワーク論と研究対象とのラポール形成に関する基礎的な知識を習得し、調査倫理の指導を行う。予備調査の計画を立て、実施する。予備調査で得られた一次資料やデータなどの知見をふまえ、学内で口頭発表を行う。課題研究IAとIBの成果をまとめ、研究論文を執筆する。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	人の国際移動に関する先行研究における議論を把握し、批判的に論じることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	博士論文で扱う研究課題を決定し、適切な方法論を設定することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での発表 (50%)		1/2	
2	タームペーパー (50%)		1/2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文献講読と批評：人の国際移動 (1) 3. 文献講読と批評：人の国際移動 (2) 4. 文献講読と批評：人の国際移動 (3) 5. データセッション (1) 6. 文献講読と批評：人の国際移動 (1) 7. 文献講読と批評：人の国際移動 (2) 8. 文献講読と批評：人の国際移動 (3) 9. データセッション (2) 10. 文献講読と批評：文化人類学のフィールドワーク論 (1) 11. 文献講読と批評：文化人類学のフィールドワーク論 (2) 12. 文献講読と批評：文化人類学のフィールドワーク論 (3) 13. データセッション (3) 14. 口頭発表 15. 口頭発表のフィードバック 				

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題となる論文を精読し、理解しておくこと（3時間）。発表担当の回には、レジユメを作成すること（5時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
初回授業で指示する。
オフィスアワー
質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IA		【単位数】		2単位
授業コード	D3430	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
地球市民教育(global citizenship education: GCED)と言語教育の理念ならびに実践に関する博士論文執筆のための研究指導を行う。この2つの教育分野の発展と相互関係を取り上げ、特に、その概念的な枠組みと実践について明らかにする。GCED、言語教育のそれぞれの分野の先行研究と、両分野の相互関係に焦点を当てた先行研究を概観し、博士論文の執筆に向け研究課題を設定し、研究計画書を作成する。方法論と研究倫理の基礎的かつ建設的な指導を行う。また、研究発表をするためのガイダンスを行う。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	研究テーマを絞り込み、研究計画を策定することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	当該領域の理論的枠組みと論点を整理することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	研究課題に必要な方法論を適切に検討することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への貢献 20%		1/2/3	
2	発表 30%		1/2/3	
3	論文 50%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業			英語	
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 年間指導計画について 研究テーマの設定と主要文献リストの作成 先行研究(GCED)の批評(1) 先行研究(GCED)の批評(2) 研究計画書作成について 先行研究(GCED)の批評(3) 先行研究(GCED)の批評(4) 理論的基盤のまとめ1を発表 先行研究(言語教育)の批評(1) 先行研究(言語教育)の批評(2) 先行研究(言語教育)の批評(3) 先行研究(言語教育)の批評(4) 理論的基盤のまとめ2を発表 研究倫理について 研究課題の設定と主要文献リストの見直し 				

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文の内容を理解しまとめる（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー
初回の授業で提示
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IB		単位数		2単位
授業コード	D3431	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
課題研究IAで獲得した知識に基づき、研究課題の独創的な推進方法について検討する。引き続き、GCEDと言語教育に関する先行研究を詳細かつ網羅的に読み解いていくことで、この分野における重要な課題を把握する。また同時に、研究の独創性を追究するために、当該分野の概念的枠組みを整理する。さらに、研究倫理の指導を行い、独自の研究方法の開発に向けて、設定した研究課題に適した調査分析方法の検討を行う。この授業の後半でIAとIBの成果をまとめて学内で発表し、そこで得られた知見や講評に基づき、研究論文を執筆する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	研究課題へのアプローチと方法論を決定することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	先行研究の詳細な批判的検討を行うことができる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への貢献 20%		1/2	
2	発表 30%		1/2	
3	論文 50%		1/2	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業			英語	
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 先行研究 (GCED) の批評 (1) 3. 先行研究 (GCED) の批評 (2) 4. 先行研究 (言語教育) の批評 (1) 5. 先行研究 (言語教育) の批評 (2) 6. 方法論 (1) 7. 方法論 (2) 8. 方法論 (3) 9. 方法論 (4) 10. 先行研究と方法論のまとめ 11. 調査分析方法の検討 (1) 12. 調査分析方法の検討 (2) 13. 調査分析方法の検討 (3) 14. 中間発表について 15. 中間発表のフィードバック 				

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文の理解をまとめた発表の準備（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー
初回の授業で提示
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IIA		【単位数】		2単位
授業コード	D3435	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
博士論文の執筆に向けて、引き続き必要な一次資料や先行論文を深く読み込むとともに、1年次に執筆した報告論文に対する指導教官などからの評価を踏まえ、それに修正を施した論文を公の場で発表して専門家の意見を広く募る。そして、口頭発表などの場で与えられた評価を考慮に入れながら、自身の方法やテーマの独創性とその意義について客観的な観点からしっかりと認識し、博士論文全体の構想と具体的な執筆計画を定められるように指導する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。		思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 (研究計画書、参考文献リストの作成を含む) 20%		1/2/3/4	
2	プレゼンテーション(口頭発表) 20%		1/2/3/4	
3	期末レポート(書評論文) 60%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 1年次年次報告の概要発表 3. 2年次の研究計画作成 4. 2年次研究のための文献リストの作成 5. 同時代の評価(1): 肯定的評価 6. 同時代の評価(2): 否定的評価 7. 1970年代の批評(1): 伝記 8. 1970年代の批評(2): 作品 9. 1970年代の批評(3): 文学ジャンル 10. 1980年以降の批評(1): 言語 11. 1980年以降の批評(2): 歴史 12. 1980年以降の批評(3): 文化 13. 書評の方法(1): 内容の要約 14. 書評の方法(2): 評価のポイント 15. 2年次報告論文のテーマ設定 				

試験等
16週目にレポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanaba等を通して、必要なフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p><予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行う（90分）</p> <p><復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518は各自購入すること。ただし、1年次にすでに購入している場合は、新たに購入する必要はない。</p> <p>その他の必携書や参考書は、授業中に適宜指示、配布する。</p>
オフィスアワー
随時。授業の前後、メール等で質問、相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメール等で予約をとってください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<p>博士課程での研究は、各自が選択した作家、作品、テーマに関する自主的な研究が尊重されるので、研究計画に従って積極的に取り組んでほしい。</p> <p>基礎的な研究姿勢や、論の組み立て方について、授業中に与えられた知識や方法についても疑問点があれば、積極的に質問、相談をすることで、それを解消するようにしてほしい。</p>

課題研究II A		単位数	2単位
授業コード	D3436	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	齋藤 衛		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
言語理論領域における研究指導を行う。比較統語論に関する理論的・経験的問題の検討を継続して行い、特に、日英語比較研究を通して、高度なレベルで統語理論の発展に貢献する力を養う。句構造形成、移動、削除に関する重要な論文を取り上げて、データを詳細に分析しながら、その理論的帰結を考える。研究の遂行、研究成果の公表に関する指導も継続して行う。受講者は、課題研究IBで執筆した論文の学会発表や公刊を準備し、第2の研究テーマを選択してその研究を開始するとともに、博士論文の構想についても考え始める。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	高度なレベルで研究を遂行し、言語研究の発展に寄与する力を身につけることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	論文(100%)		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
統語理論全般における重要論文の検討			
1. 句構造形成			
2. 移動 (I)			
3. 移動 (II)			
4. 省略 (I)			
5. 省略 (II)			
受講者のテーマに関する背景知識と重要論文			
6. 背景知識の講義 (I)			
7. 背景知識の講義 (II)			
8. 論文検討 (I)			
9. 論文検討 (II)			
10. 論文検討 (III)			
受講者による研究成果の発表とフィードバック			
11. 問題提議			
12. 背景説明			
13. 分析の提示			
14. 帰結の検討			
15. 論文の意義			

試験等 論文提出
試験のフィードバックの方法 提出された論文に対して、詳細にコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 必要な研究を行う。週10時間。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 受講者と相談の上、決定する。
連絡先 saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究II A		単位数	2単位
授業コード	D3437	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
第二言語習得研究について、博士論文のテーマを絞り込み、選んだ研究課題についての関連する最新の先行研究を批判的に読んでいく。課題研究IBで書き上げた論文の課題をさらに深め発展させて、研究会や学会等で発表する機会を得る。また、博士論文のテーマに関連するその他の言語現象を複数取り上げ、課題研究IBで学んだ内容と研究成果を応用して、同様の予備調査または小規模な実験を実施する。その分析結果を研究会等で発表して、他の研究者からのフィードバックを得る。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文に関する課題をさらに深め発展させることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	当該領域における最新の先行研究の内容に関して建設的批判ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	予備調査等で得られた成果を学内外で発表することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	発言等による授業への貢献 20%	1/2/3	
2	先行研究のまとめ 30%	1/2/3	
3	研究調査等による論文 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 年間指導計画について 研究テーマの再設定と関連する研究の主要文献リストの作成 先行研究(応用)の批評(1) 先行研究(応用)の批評(2) 研究計画書作成について 先行研究(応用)の批評(3) 先行研究(応用)の批評(4) 応用研究のまとめを発表 調査・実験計画 調査・実験の方法論 調査・実験の実施 調査・実験結果のまとめ 調査・実験結果の分析 調査・実験結果の考察 先行研究(応用)と調査・実験結果の考察のまとめ 			

試験等 研究論文
試験のフィードバックの方法 書面と口頭によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる（4時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー By appointment
連絡先 mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究II A		単位数	2単位
授業コード	D3438	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	桑山 敬己		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
初年度の研究を受けて、受講生は博士論文の理論的枠組みを決定し、それが文化人類学全体に持つ意義を明らかにする。同時に、明治中期から昭和前期における英語圏の日本論について造詣を深め、新渡戸稲造や岡倉天心といった当時の日本を代表する知識人による日本論との交差について考察する。博士論文のテーマに関する資料と分析がある程度済んだ時点で、英語圏で日本が語られている現場(講習会や学会など)に身を置き、彼らの視点を肌で獲得すると同時に英語での発信能力を磨く。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	受講生は研究課題 I を踏まえたうえで、20世紀前後の日本の代表的知識人による日本論に精通することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	プロフェSSIONナルを目指す者として主体的に研究することを学ぶことができる。	主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70パーセント) 授業中の発表(30パーセント)	1/2	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1週 導入			
第2週 Nitobe, Bushido, Chapters 1, 2, 3, 4			
第3週 Nitobe, Bushido, Chapters 5, 6, 7, 8			
第4週 Nitobe, Bushido, Chapters 9, 10, 11, 12			
第5週 Nitobe, Bushido, Chapters 13, 14, 15, 16			
第6週 Nitobe, Bushido, Chapters 17, and overall review			
第7週 Okakura, The Awakening of Japan, Chapters 1, 2, 3, 4			
第8週 Okakura, The Awakening of Japan, Chapters 5, 6, 7, 8			
第9週 Okakura, The Awakening of Japan, Chapters 9, 10, and overall review			
第10週 Okakura, The Book of Tea, Chapters 1, 2, 3			
第11週 Okakura, The Book of Tea, Chapters 4, 5, 6			
第12週 Okakura, The Book of Tea, Chapters 7, and overall review			
第13週 受講生発表 1			
第14週 受講生発表 2			
第15週 まとめ			

試験等
教員と相談のうえ特定のテーマについて期末レポートを作成する。
試験のフィードバックの方法
期末レポートにコメントをつけて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
博士課程の学生に相応しい勉強量を求める。各週とも5時間の準備は必要である。発表の有無にかかわらず、学生は毎週のアサインメントを必ず読むこと。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
上記3冊（留意事項を参照）
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
Bushido, The Awakening of Japan, The Book of Tea の3冊はいろいろなバージョンが出ているので、Internet Archive から初版をダウンロードすること。

課題研究II A			単位数	2単位
授業コード	D3439	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	木原 健次			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
米文学とその背景をなす社会や文化に関する博士論文の執筆を目指して、研究指導を行う。絞り込んできたテーマに関する一次資料や先行論文を収集し深く読み込むとともに、指導教官などから与えられた1年次の報告論文に対する評価、とりわけその短所とされた部分を熟考して、加筆修正した論文を公の場で発表する。さらに、そこで得られた専門家の意見を踏まえて、自身の方法やテーマの意義について多角的な視点から見直した上で、博士論文の全体的な構想と具体的な執筆計画を定める。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。		思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 (研究計画書、参考文献リストの作成を含む) 20%		1/2/3/4	
2	プレゼンテーション(口頭発表) 20%		1/2/3/4	
3	期末レポート(書評論文) 60%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. オリエンテーション 2. 前年度年次報告論文のレビュー 3. 先行論文の精読と批判的分析(1): 役に立つ表現技法/テクニック 4. 先行論文の精読と批判的分析(2): 論文の独創性の説明の仕方 5. 先行論文の精読と批判的分析(3): グルーピング 6. Annotated Bibliographyの作成 7. アプローチの方法(1): 批評理論講読 8. アプローチの方法(2): 批評理論講読 9. アプローチの方法(3): 批評理論講読 10. 学会発表用の原稿作成 11. 文献の評価(1): 主要文献の講読 12. 文献の評価(2): 主要文献の講読 13. 文献の評価(3): 主要文献の講読 14. 文献の評価(4): 主要文献の講読 15. 博士論文の構想発表/執筆計画設定				

試験等
16週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanaba等を通して、必要なフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p><予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行う（90分）</p> <p><復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518は各自購入すること。</p> <p>その他の参考書は、授業中に適宜指示、配布する。</p>
オフィスアワー
初回の授業で提示
連絡先
kenji.kihara@tsuda.ac.jp
留意事項

課題研究II A		【単位数	2単位
授業コード	D3440	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	植野 貴志子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
IAとIBと予備調査で得られた成果を検証し、長期フィールドワークの開始に向けて、社会学、文化人類学における人の国際移動に関して欧米で出版された主要論文と民族誌を扱う。特に、マルチサイトッド・エスノグラフィーを批判的に読み込み、インフォーマントのミクロな生活世界とマクロな構造の連関を解明するために、複数の調査地を横断するフィールドワークをどのようにデザインするか検討を重ねる。調査開始後は、一次資料や質的データの収集を進めつつ、調査する国や地域での学会等で随時研究発表を行い、研究のネットワーク構築に努める。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会学、文化人類学における人の国際移動に関する主要な議論を把握し、批判的検証を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	フィールドワークの実施計画を策定することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	収集した一次資料や質的データの分析を進め、学会等で研究発表を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	プレゼンテーション (50%)	1/2/3	
2	タームペーパー (50%)	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. インTRODクシヨN 2. 文献講読：社会学 (1) 3. 文献講読：社会学 (2) 4. 文献講読：社会学 (3) 5. まとめ1 6. 文献講読：文化人類学 (1) 7. 文献講読：文化人類学 (2) 8. 文献講読：文化人類学 (3) 9. まとめ2 10. 文献講読：フィールドワークの方法 (1) 11. 文献講読：フィールドワークの方法 (2) 12. データセッション (1) 13. データセッション (2) 14. データセッション (3) 15. 個人面談			

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題となる論文を精読し、理解しておくこと（3時間）。発表担当の回には、レジユメを作成すること（5時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で適宜紹介する。
オフィスアワー
質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IIA		【単位数】	2単位
授業コード	D3441	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
<p>課題研究IA, IBで得られた自らの研究成果をふまえ、言語教育分野におけるGCED研究の意義と学術的な貢献を明確化するために、さらに関連する先行研究の批判的考察を深めていく。IBの成果として先行研究の検討についてまとめた研究論文を発展させ、学会発表を行う。さらに、特定の事例の実証的研究に取り組むために、研究対象を選定し、データ収集を開始する。授業計画や教材などの一次資料を分析し、実際の教育現場においてGCEDの要素がどのように外国としての英語教育に取り入れられているかについて明らかにする。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1			
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1			
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
連絡先
留意事項

課題研究IIB		【単位数】		2単位	
授業コード	D3445	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	新野 緑				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	英米文学				
本授業の概要					
博士論文の執筆に向けて、IIAでの軌道修正をも踏まえて博士論文全体の構想を確定し、論文作成計画書を作成、それに則り新たに2年次の報告論文を執筆する。テーマや方法論の見極めに加えて、効果的な引用や解説の方法が実践できるよう指導する。また1年次に執筆した年次報告に口頭発表時に与えられた評価も考慮に入れつつ適切な修正を施し、それを活字の形で公開し、さらに広範囲の専門家の批評を仰ぐ機会を持つことで博士論文の構想の意義を再考し、より独創性のある充実した論文となるように導く。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 (研究計画書、参考文献リストの作成を含む) 20%			1/2/3/4	
2	プレゼンテーション(口頭発表) 20%			1/2/3/4	
3	期末レポート(書評論文) 60%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 2年次報告論文のアウトライン 参考文献表の作成 2年次報告論文第一回中間発表(日本語) 参考文献の評価 口頭発表と日本語及び英語論文の文体 引用の活用方法 第2回中間発表 分析結果の吟味 主要参考文献の評価 第3回中間発表 序論 結論 論文全体の見直し 博士論文執筆計画の見直し まとめ 					

試験等
16週目にレポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanaba等を通して、必要なフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p><予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行う（90分）</p> <p><復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518は各自購入すること。ただし、1年次にすでに購入している場合は、新たに購入する必要はない。</p> <p>その他の必携書や参考書は、授業中に適宜指示、配布する。</p>
オフィスアワー
随時。授業の前後、メール等で質問、相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメール等で予約をとってください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<p>博士課程での研究は、各自が選択した作家、作品、テーマに関する自主的な研究が尊重されるので、研究計画に従って積極的に取り組んでほしい。</p> <p>基礎的な研究姿勢や、論の組み立て方について、授業中に与えられた知識や方法についても疑問点があれば、積極的に質問、相談をすることで、それを解消するようにしてほしい。</p>

課題研究II B		【単位数】	2単位
授業コード	D3446	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	齋藤 衛		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
言語理論領域における研究指導を行う。課題研究II Aに示した指導を継続する。特に、正確な分析を提示し、統語理論や比較統語論の発展に寄与する意義のある帰結を導く力を養成する。また、受講者が将来的に研究職・教育職に従事することを想定して、他者の研究を的確に評価し、建設的なコメントを加えることができるように指導を行う。受講者は、学位論文作成計画書を作成し、また、2番目の論文を完成させる。学会発表や論文の専門誌投稿を継続して行い、研究者としての活動を本格化する。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	高度なレベルで研究を遂行し、言語研究の発展に寄与する力を身につけることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	論文(100%)		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
統語理論全般における重要論文の検討			
1. 句構造形成			
2. 移動 (I)			
3. 移動 (II)			
4. 省略 (I)			
5. 省略 (II)			
受講者のテーマに関する背景知識と重要論文			
6. 背景知識の講義 (I)			
7. 背景知識の講義 (II)			
8. 論文検討 (I)			
9. 論文検討 (II)			
10. 論文検討 (III)			
受講者による研究成果の発表とフィードバック			
11. 問題提議			
12. 背景説明			
13. 分析の提示			
14. 帰結の検討			
15. 論文の意義			

試験等 論文提出
試験のフィードバックの方法 提出された論文に対して、詳細なコメントを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 研究を遂行する。週10時間。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 受講者と相談の上、決定する。
連絡先 saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IIB		【単位数】	2単位
授業コード	D3447	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
第二言語習得研究に関する博士論文の執筆に向けて、これまで取り上げた複数の言語現象の調査・実験結果とその分析を踏まえ、博士論文全体の構想を練り、具体的な論文の構成を検討した上で、学位論文作成計画書を提出する。また、これまで読んできた先行研究に関する理解をさらに深め、博士論文のテーマと関連づけながら、博士論文中の先行研究のまとめの章から執筆を開始する。さらに、課題研究IBで提出した論文を紀要や学会誌等へ投稿するとともに、IIAでの成果も発表する機会を得る。本調査・実験を実施する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	これまでの成果をもとに博士論文全体の構想を立てることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	博士論文に必要な先行研究を理解し、適切にまとめることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	これまでの研究成果を学内外で発表・投稿することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4	予備調査・実験を経て、本調査・実験を実施することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1			
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士論文の構成 2. 学位論文作成計画書の執筆 3. 先行研究のまとめと批評 (1) 4. 先行研究のまとめと批評 (2) 5. 先行研究のまとめと批評 (3) 6. 博士論文先行研究のまとめ 7. 本調査・実験の計画 8. 本調査・実験の方法 9. 本調査・実験の実施 10. 本調査・実験結果のまとめ 11. 本調査・実験結果の分析 12. 本調査・実験結果の考察 (1) 13. 本調査・実験結果の考察 (2) 14. 成果発表について 15. 成果発表のフィードバック 			

試験等 研究論文
試験のフィードバックの方法 口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる（4時間）または 研究計画や成果をハンドアウトにまとめる（6時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー By appointment
連絡先 mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IIB		単位数		2単位
授業コード	D3448	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
昭和中期から現代までの英語圏における代表的日本論を精読し、幕末以降の日本論全体に関する知識を盤石にする。研究に幅をもたせるため、英語圏以外(特に東アジア圏)の重要文献も考察する。未翻訳の場合は自動翻訳機を使って意味を読み取る。受講者はIIAまでに積み上げてきた成果を国内外のメジャーな学会で発表し、単に学術的フィードバックを得るだけでなく、学界人としての社会化を図る。以上の経験に基づいて、受講者は学術論文を執筆して紀要や学会誌に投稿する。そして学位論文作成計画書を作成・提出する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	第2次世界大戦前後から現代に至るまでの英語圏の代表的日本論に精通することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	プロフェSSIONALを目指す者として主体的に研究することを学ぶことができる。		主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70パーセント) 授業中の発表(30パーセント)		1/2	
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1週 導入				
第2週 Embree, Suye Mura, Chapters 1, 2,				
第3週 Embree, Suye Mura, Chapters 3, 4				
第4週 Embree, Suye Mura, Chapters 5, 6				
第5週 Embree, Suye Mura, Chapters 7, 8				
第6週 Wisell, Women of Suye Mura, Chapters 1, 2, 3				
第7週 Wisell, Women of Suye Mura, Chapters 4, 5, 6				
第8週 Wisell, Women of Suye Mura, Chapters 7, 8, 9				
第9週 Wisell, Women of Suye Mura, Chapters 10, 11, 12				
第10週 男性研究者の構造機能主義的モノグラフと女性研究者のジェンダー論の比較				
第11週 Benedict, The Chrysanthemum and the Sword, Chapters 1, 2, 3				
第12週 Benedict, The Chrysanthemum and the Sword, Chapters 4, 5, 6				
第13週 Benedict, The Chrysanthemum and the Sword, Chapters 7, 8, 9				
第14週 Benedict, The Chrysanthemum and the Sword, Chapters 10, 11, 12, 13				
第15週 まとめ:文化人類学的異文化理解の可能性と限界				

試験等
教員と相談のうえ特定のテーマについて期末レポートを作成する。
試験のフィードバックの方法
期末レポートにコメントをつけて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
博士課程の学生に相応しい勉強量を求める。各週とも5時間の準備は必要である。発表の有無にかかわらず、学生は毎週のアサインメントを必ず読むこと。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
John Embree, Suye Mura: A Japanese Village. Chicago: University of Chicago Press, 1939. Robert Smith & Ella Wiswell, Women of Suye Mura. Chicago: University of Chicago Press, 1982 Ruth Benedict, The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture. Boston: Houghten Mifflin, 1946.
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
Benedict にはいろいろなヴァージョンがあるので、上記出版社の版を選ぶこと。

課題研究IIB			単位数	2単位
授業コード	D3449	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	木原 健次			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
米文学とその背景をなす社会や文化に関する博士論文の執筆を目指して、研究指導を行う。IIAで定めた博士論文の構想に沿った形で、その一部となる2年次の報告論文を新たに執筆する。また1年次に執筆した年次報告をもとに修正を加えた論文を学会誌等に投稿し、当該研究分野における自身の研究の意義や論文の独創性などを見直した上で、全体の構成や方法論を確認し、学位論文作成計画書を完成する。同時に、論文の完成に必要な知識の補充、論の組み立て方や引用の方法等の論文執筆の細部のテクニックについても意識的に取り組めるように指導する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各自の研究テーマについて深く理解し、先行研究の調査を通して自身の研究を専門領域の中に正しく位置づけられる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学研究の批評理論を理解し、具体的なテキスト分析に応用できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆を視野に入れた具体的な研究計画書を作成できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	建設的・創造的な研究の進め方、英文による基礎的な研究論文の書き方と研究倫理、口頭発表の方法を理解し、実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 20%		1/2/3/4	
2	プレゼンテーション 20%		1/2/3/4	
3	年次報告論文 60%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士論文作成計画書で書くべきこと：research object、methodology、contribution 2. 年次報告のテーマ及び概要報告 3. 年次報告用参考文献表の作成 4. 博士論文用参考文献表の作成 5. 年次報告用アウトラインの作成 6. 年次報告論文第一回中間発表 7. MLAスタイルの概要把握 8. 先行研究への介入方法 9. 年次報告論文第二回中間発表 10. 博士論文作成計画書の中間発表 11. 対象分野の研究の系譜(1)：初期～中期 12. 対象分野の研究の系譜(2)：近年～最新の研究動向との接続 13. 方法論の系譜(1)：採用する方法論のルーツ 14. 方法論の系譜(2)：採用する方法論の近年の展開 15. 博士論文作成計画書の完成 				

試験等
16週目に年次報告論文を提出する
試験のフィードバックの方法
適宜manaba等を通してフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p><予習>博士論文全体の構成を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行う（90分）</p> <p><復習>授業で与えられたコメントの内容を考慮に入れながら、自身の研究をさらに発展できるようにする（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518 各自で授業までに購入すること。ただし、第1期に課題研究IAで購入の場合は、同じなので購入の必要はない。</p> <p><参考書>その他の参考書は、適宜授業中に指示、配布する。</p>
オフィスアワー
初回の授業で提示
連絡先
kenji.kihara@tsuda.ac.jp
留意事項

課題研究II B		【単位数】	2単位
授業コード	D3450	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	植野 貴志子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
課題研究II Aでの学習内容をふまえ、長期フィールドワークへと段階的に発展させるなかで顕在化した、方法論のもつ課題やフィールドワークの問題点を洗い出し、現場の固有性を捉え、研究の独創性を高められるように調査研究の指導を行う。調査で得られたデータの分析や事例の考察を行い、博士論文の主要な論点として整理する。博士論文の構成を検討し、学位論文作成計画書を作成する。II AとII Bの研究結果を学内で発表し、学会誌への投稿に向けて研究論文を執筆する。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	フィールドワークで得られたデータの分析、考察をもとに、学位論文作成計画書を作成することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	研究成果をまとめ学内外で口頭発表を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	学会誌に投稿しうる研究論文をまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	プレゼンテーション (50%)	1/2/3	
2	タームペーパー (50%)	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクシヨN 2. フィールドワークの問題点 (1) 3. フィールドワークの問題点 (2) 4. 方法論の検討 (1) 5. 方法論の検討 (2) 6. データの分析・考察 (1) 7. データの分析・考察 (2) 8. データの分析・考察 (3) 9. データの分析・考察 (4) 10. 文献の分析・考察 (1) 11. 文献の分析・考察 (2) 12. 学位論文作成計画書の作成 (1) 13. 学位論文作成計画書の作成 (2) 14. 学位論文作成計画書の作成 (3) 15. 総括・講評 			

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題となる論文を読み、議論を整理する。自らの研究を進める。（10時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で適宜紹介する。
オフィスアワー
質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

課題研究IIB		【単位数】	2単位
授業コード	D3451	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
<p>課題研究IIAでの研究成果をふまえ、GCEDの実証研究に関する博士論文を執筆するうえで主軸となる研究課題を決定し、学位論文作成計画書を作成する。また、博士論文全体の構成の設定についても指導を行う。IIAで行った事例研究の考察を深め、学内で研究発表を行い、そこで得られたフィードバックやコメントをもとに修正を加え、研究論文を完成させる。さらに、博士論文の中心的研究として、当事例研究について教育を提供する側とされる側の双方を対象とした質的研究を開始し、データの収集を行う。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1			
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1			
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
連絡先
留意事項

ヨーロッパ社会史 A		【単位数】	2単位
授業コード	D3500	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	轟木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	ヨーロッパ史		
本授業の概要			
ヨーロッパ中世の騎士をとりまく世界について理解を深めることを目的とする。12世紀に花開くことになる騎士文化は、後のヨーロッパ文明のイメージーションにとって一つの重要な源泉になってきたが、本講では、騎士的な行動スタイルや価値観、宮廷風恋愛、キリスト教的騎士像などが、現実の中世社会のなかでどのように形作られていったのかを検討する。文化的な側面だけでなく、騎士の領主としての生活や主君との関係など、社会史的側面にも踏み込む。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ヨーロッパ社会史のテーマの広がりや方法について多角的な知見を獲得する。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文書や図像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	平常点 (70%)	1/2	
2	発表 (30%)	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. 騎士社会の概要 2. 騎士社会の誕生 3. Georges Duby, "Chivalrous Society" 所収論文の講読; 前半 4. Georges Duby, "Chivalrous Society" 所収論文の講読; 後半 5. ヨハン・ホイジンガ『中世の秋』前半 6. ヨハン・ホイジンガ『中世の秋』後半 7. 城と戦争; 中世前期 8. 城と戦争; 中世後期 9. 騎士文学; 『ローランの歌』前半 10. 騎士文学; 『ローランの歌』後半 11. 騎士文学; クレチアン・ド・トロワ前半 12. 騎士文学; クレチアン・ド・トロワ後半 13. 宮廷風恋愛; 『宮廷風恋愛の技法』 14. 宮廷風恋愛; 吟遊詩人(トゥルバドール) 15. 宮廷風恋愛; いくつかの作品			

試験等
3～5回程度の発表。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
配布するテキストには事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
毎回の授業で資料教材を配布する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

ヨーロッパ社会史B		【単位数】	2単位
授業コード	D3501	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	轟木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	【関連分野】		
本授業の概要			
ヨーロッパの古代末期から中世を対象として、キリスト教的聖性・霊性という問題を社会史的に考察することを目的とする。具体的には、救霊にかかわる教会の諸慣行、聖人・聖遺物崇拜、修道的实践、異端問題などを取りあげる。一口にキリスト教文化といっても、歴史的に見れば、時代的に大きな変容を被ってきたことを理解する必要がある。本講ではまた、公式の教義や制度の面にとどまらず、実践やあらゆる形態の思想の面からもアプローチすることを心がける。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	ヨーロッパ社会史のテーマの広がりについて多角的な知見を獲得する。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	文書や図像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	平常点 (70%)		1/2
2	発表 (30%)		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代末期～中世のキリスト教的霊性についてのイントロダクション 2. 洗礼と贖罪 3. 告解の変遷 4. 聖人・聖遺物崇敬の誕生 5. 聖人・聖遺物崇敬の隆盛 6. 列聖審査 7. 修道制のはじまり 8. クリュニー会・シトー会 9. 托鉢修道会 10. 古代末期の異端論争 11. 中世盛期の異端 12. カタリ派 13. アルビジョワ十字軍 14. 異端審問 15. まとめ 			

試験等
3～5回程度の発表。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
配布するテキストには事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
毎回の授業で資料教材を配布する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

宗教社会学A		単位数		2単位
授業コード	D3510	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	福田 雄			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	関連分野			
本授業の概要				
主としてキリスト教文化圏における宗教社会学の古典的文献を講読し、社会文化に関する洞察を得るとともに、現代宗教に関する実証的研究と対比させながら、その現代的意義を確認する。ヴェーバー、デュルケームのほか、現代的文脈のなかでこれらの議論を批判的に検討する英語文献として、Wilkinson, 2005, Suffering: A Sociological Introduction や Pickering (eds.), 2012, Suffering and Evil: The Durkheimian Legacy等を講読する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	宗教社会学の古典的研究における問題関心(近代化と世俗化)を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。		知識・技能	
2	上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。		思考・判断・表現力	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポート: 古典文献の読解と要約(60%)		1/2	
2	授業への取り組み姿勢: 現代社会への展開可能性についての議論の内容を評価(40%)		1/2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 「緒言」 3. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 I 問題」 4. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 II 禁欲主義的プロテスタンティズムの天職倫理」 5. 「プロテスタント諸信団と資本主義の精神」 6. Parsons, T. 1966 "Introduction" in Max Weber, The Sociology of Religion. Beacon Press 7. ヴェーバー「世界宗教の経済倫理 序論」『宗教社会学論選』 8. 「苦難の神義論と災禍をめぐる記念行事」『宗教と社会』24: 65-80 9. 「序論」 10. 「第一部 前提問題」 11. 「第二部 基本的信念」 12. 「第三部 主要な儀礼的態度」 13. ウォーナー, W. L. 「アメリカの神聖な儀式の象徴的分析」『アメリカ人の生活構造』 14. 岡崎宏樹「社会学と哲学」『日仏社会学年報』26: 69-90 15. 振り返りと総括 				

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業に先立ち、とりあげる研究を事前に講読したうえで、レジュメを作成する。120分。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
『マックス・ヴェーバー 宗教社会学論集 第1巻上』（北海道大学出版会、2019年）2. ～ 5. デュルケーム『宗教生活の基本形態 上・下』（ちくま学芸文庫、2014年）9. ～12
オフィスアワー 水曜2限
連絡先 u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

宗教社会学B		【単位数】		2単位
授業コード	D3511	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	福田 雄			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	【関連分野】			
本授業の概要				
宗教社会学の古典的文献の背景にある方法論およびキリスト教文化を、当時の文脈における問題関心に照らし合わせながら、批判的に考察する。さらに、現代社会を分析するにあたっての展開の可能性を検討する。講読文献として、デュルケム『社会学的方法の基準』、ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』のほか、Riesebrodt, 2012, The Promise of Salvation: A Theory of Religion 等 をとりあげる。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	宗教社会学の古典的研究における問題関心とその方法論を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。		知識・技能	
2	上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。		思考・判断・表現力	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポート：古典文献の読解と要約 (60%)		1/2	
2	授業への取り組み姿勢：現代社会への展開可能性についての議論の内容を評価 (40%)		1/2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 友枝敏雄「社会学の方法」『社会学の力』 3. 菊谷和宏「トクヴィルとデュルケム」『社会学評論』49(2): 172-187 4. 山崎亮「『宗教生活の基本形態』の宗教学的読解」『デュルケム宗教学思想の研究』 5. 『社会学的方法の基準』 6. 盛山和夫「社会的事実とは何か」『社会学的方法的立場』 7. 厚東洋輔「デュルケムと道徳の「実証科学」」『〈社会的なもの〉の歴史』 8. 『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』 9. 『仕事としての学問 仕事としての政治』 10. マイヤー「歴史の理論と方法」『歴史は科学か』 11. ヴェーバー「文化科学の論理学の領域における批判的研究」『歴史は科学か』 12. 佐藤俊樹「社会科学とは何か」『社会科学と因果分析』 13. 盛山和夫「理念型という方法」『社会学的方法的立場』 14. 厚東洋輔「ヴェーバーと合理主義の社会学」『〈社会的なもの〉の歴史』 15. 振り返りと総括 				

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業に先立ち、とりあげる研究を事前に講読したうえで、レジュメを作成する。120分。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
デュルケーム『社会学的方法の基準』（講談社学術文庫、2018年）5. ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）8. ヴェーバー『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）9. 盛山和夫『社会学的方法的立場』（東京大学出版会、2013年）6.13. 厚東洋輔『〈社会的なもの〉の歴史』（東京大学出版会、2020年）7.14
オフィスアワー
水曜2限
連絡先
u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

外国語（英語）教育ⅠA		単位数	2単位
授業コード	D3520	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	達川 奎三		
時間割備考	隔週2コマ連続		
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	関連分野		
本授業の概要			
日本の初等・中等教育における英語科教育の現状を吟味し、とりわけ英語学力評価における諸課題とそれを解決するための指針を考える。具体的には、コミュニケーション能力の構成概念、そしてテスト開発の際の「妥当性」「信頼性」「実行可能性」などについて理解を深める。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	日本の初等・中等教育における英語科教育の現状を吟味し、とりわけ英語学力評価における諸課題とそれを解決するための指針を考えることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	コミュニケーション能力の構成概念、そしてテスト開発の際の「妥当性」「信頼性」「実行可能性」などについて理解を深めることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での発言の内容や参加態度（25%）	1/2	
2	登録学生による発表（25%）	1/2	
3	レポート（50%）	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務経験あり。	
実務経験の授業への活用方法			
高等学校英語教諭として16年の実務経験を生かして、「理論」と「実践」の統合を目指す。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1&2回： コミュニケーション能力の下位構成概念 第3&4回： テスト開発の基本とコミュニケーション志向の教材 第5&6回： 「発話行為」をどう教えるか 第7&8回： 日本の小学校英語の現状と課題 第9&10回： 外国語教育にどのようにビジュアル（視覚情報）を活用するか 第11&12回： 方略能力（strategic competence）を考える 第13&14回： やり取りにおける「協調の原理」を考える 第15&16回： レポート提出及びフィードバック なお、受講学生の専攻・要望などにより、内容を変更する場合があります。			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 指定された論文・図書を読んでまとめる（3時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜、紹介・指示をする。
オフィスアワー 質問や相談があれば、授業の前後に面談をします。アポと取ってください。また、メールで連絡していただければ、やり取りもできます。keiso_t@yahoo.ne.jp または、tatsukawa@hiroshima-u.ac.jp です。
連絡先 keiso_t@yahoo.ne.jp または、tatsukawa@hiroshima-u.ac.jp
留意事項

外国語（英語）教育IB		【単位数】	2単位
授業コード	D3521	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	達川 奎三		
時間割備考	隔週2コマ連続		
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	【関連分野】		
本授業の概要			
「外国語（英語）教育IA」で確認したことをもとに、実際の（外部）英語資格試験、（公立）高等学校入試問題、オーラル・インタビュー・テストなどを吟味・考察をする。また、2020年度から導入された小学校英語教育の現状と課題を考えてみる。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）
1	「外国語（英語）教育IA」で確認したことをもとに、実際の（外部）英語資格試験、（公立）高等学校入試問題、オーラル・インタビュー・テストなどの目的や特徴を理解し、報告できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	2020年度から導入された小学校英語教育の現状と課題を知り、その改善に向けた自身の考えを表現できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での発言の内容や参加態度（25%）		1/2
2	登録学生による発表（25%）		1/2
3	レポート（50%）		1/2
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
高等学校英語教諭として16年の実務経験を生かして、「理論」と「実践」の統合を目指す。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1&2回： 英語資格試験のねらいと測定能力（知識と技能）①実用英語技能検定（一次筆記）			
第3&4回： 英語資格試験のねらいと測定能力（知識と技能）②実用英語技能検定（二次面接）			
第5&6回： 高等学校入試問題の測定能力①			
第7&8回： 高等学校入試問題の測定能力②			
第9&10回： 英語圏への留学資格試験（主としてIELTS）			
第11&12回： オーラル・インタビュー・テストの開発			
第13&14回： ライティングの評価の観点と開発			
第15&16回： レポート提出及びフィードバック			
なお、受講学生の専攻や要望などにより、内容を変更する場合があります。			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 指定された論文・図書を読んでまとめる（3時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜、紹介・指示をする。
オフィスアワー 質問や相談があれば、授業の前後に面談をします。アポと取ってください。また、メールで連絡していただければ、やり取りもできます。keiso_t@yahoo.ne.jp または、tatsukawa@hiroshima-u.ac.jp です。
連絡先 keiso_t@yahoo.ne.jp または、tatsukawa@hiroshima-u.ac.jp
留意事項

外国語（英語）教育IIA		【単位数】	2単位
授業コード	D3530	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	【関連分野】		
本授業の概要			
本講では、TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) におけるこれまでの成果を概観し、その中でも多くの国において成功を遂げた事例を取り上げて講義を行う。具体的には、いわゆる4技能（読む、書く、話す、聞く）をバランスよく駆使したコミュニケーションスキルの発達を目指した教授方法や、学習者のその環境に応じた評価方法、ニーズ調査を踏まえてのカリキュラム開発等に関する研究を考察する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students are familiar with the recommended Foreign Language Education (FLE) methodologies in practice today.	知識・技能	
2	Students understand the theories behind FLE methodologies and how to apply them to a classroom setting.	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	Students are able to select FLE methods for their own current or future learning/teaching situations.	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	Weekly written reflections and discussions 60%	1/2	
2	Written Investigation of an FLE methodology 20%	1/2/3	
3	FLE Methodology Presentation 20%	3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業		【English】	
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation: FLE Methodologies 2. Teaching the 4 Skills 3. Methodology 1: Communicative Learning 4. Case Study: Impact Textbook 5. Case Study: Impact Textbook 6. Motivating students through Active Learning 7. Methodologies 2: Task-based/Project Based 8. Case Study: Model UN 9. Case Study: Model UN 10. Presenting FLE Independent Research 11. Teaching Cultural Understanding 12. Methodologies 3: CBT/CLIL 13. Case Study: Storycorps 14. Case Study: Storycorps 15. Summary and Final Assessment 			

<p>試験等</p> <p>Overall assessment will be determined by weekly written reflections and discussions, in addition to the writing and presentation of an independent investigation.</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>Feedback will be ongoing and provided on the final lesson.</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>Students will need to spend a minimum of 3 hours a week on assigned readings and independent research related to the class.</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>Readings will be provided by the professor. No textbook required.</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>Office hours will be announced in class.</p>
<p>連絡先</p> <p>fast@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p>

外国語（英語）教育IIB		【単位数】	2単位
授業コード	D3531	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	【関連分野】		
本授業の概要			
<p>本講では、内容重視の外国語教授法であるCBI (Content-Based Instruction)とCLIL (Content and Language Integrated Learning) について講義を行う。これらの教授法の理念を理解し、それぞれの教授法におけるモデルについて、どのようなバランスで内容と言語教育が配されているかを考察する。さらに、学習者の観点から見た学習ストラテジーについて学び、授業計画を立案することで、CBIとCLILの効果的な運用を検討する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	Students are familiar with the recommended Foreign Language Education (FLE) methodologies in practice today.		知識・技能
2	Students understand the theories behind FLE methodologies and how to apply them to a classroom setting.		知識・技能/思考・判断・表現力
3	Students are able to select FLE methods for their own current or future learning/teaching situations.		思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	Weekly written reflections and discussions 60%		1/2
2	Written investigation of an FLE methodology 20%		1/2/3
3	FLE Presentation 20%		3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業		【English】	
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: FLE Methodologies II 2. Teaching English in English 3. Methodologies: Inquiry-based, student-Centered Learning 4. Case Study: World Heritage 5. Case Study: World Heritage 6. What: Teaching Global Skills 7. How: Global Ed 8. Case Study: Theory of Knowledge 9. Case Study: Theory of Knowledge 10. Presenting FLE Independent Research 11. What: Digital Skills 12. How: COIL 13. Case Study: Story Circles 14. Case Study: Story Circles 15. Summary and Final Assessment 			

試験等
Overall assessment will be determined by weekly written reflections and discussions in addition to the writing and presentation of an independent investigation.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be ongoing and provided in the final lesson.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students will need to spend a minimum of 3 hours a week on assigned readings and independent research related to the class.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Readings will be provided by the professor. No textbook required.
オフィスアワー
Office hours will be announced in class.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

キャリアデザインA		【単位数】	2単位
授業コード	D3540	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	山下 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	【関連分野】		
本授業の概要			
本講義は、女性研究者としてのキャリアに関する現状を認識し、多様なキャリアストーリーの可能性を念頭に置いたうえで、研究者・教育者・専門職業人としての実践力を養成することを目的としている。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	キャリア理論を学ぶことで、自分の研究とキャリアを関連付けて考えることができる		知識・技能/主体性
2	研究者・教育者・専門職業人として、将来必要となる実用的側面の能力について説明することができる		知識・技能/思考・判断・表現力
3	グループ・ディスカッションを通して、社会で求められている批判的思考力やコミュニケーション能力について説明することができる		思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	課題・レポート 30%		1/2/3
2	授業への取り組み・討論 30%		1/2/3
3	最終レポート 40%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. ガイダンス 2. キャリアデザイン 3. 多様なキャリアストーリー 4. 日本や諸外国における若者のキャリア形成 5. 教育達成と社会的地位達成 6. 女性のキャリアデザインとキャリア教育 7. アカデミック・キャリアに必要な能力 8. TA・RAに必要な知識と能力 9. カリキュラムシラバスの策定方法 10. 研究資金の獲得方法 11. 自己理解と批判的思考力 12. 自己表現力とキャリアデザイン 13. 自己実現とキャリア開発 14. アカデミア以外の新しいキャリアへの挑戦 15. 総括			

試験等
最終レポート
試験のフィードバックの方法
課題レポートについて、コメントを付して返却する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 講義後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、キャリアデザインについて自分なりに考察を深めてもらいたい（各回4時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

キャリアデザインB		【単位数】	2単位
授業コード	D3541	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	山下 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	【関連分野】		
本授業の概要			
本講義は、大学院修了後のキャリアの選択肢を広げることを視野に入れた実践力を養うことを目的とする			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	女性管理職推進など社会からの多様な役割期待を知り、それに対応するために必要な力を説明することができる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	リーダーとなるために必要な要素を理解し、協働力やマネジメント力を実行することができる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	さまざまな場面で通用するトランスファラブルな力について説明することができる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	課題・レポート 30%	1/2/3	
2	授業への取り組み・討論 30%	1/2/3	
3	最終レポート 40%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. ガイダンス 2. 「知のプロフェッショナル」とは 3. 「知のプロフェッショナル」に求められる力 4. トランスファラブルな力とは 5. アカデミック・キャリアの事例 6. 課題発見・解決力 7. 未来社会の構想・設計力 8. グローバルに活躍するリーダー 9. 論理的思考力と規範的判断力 10. シンクタンクファームの事例 11. データ分析力 12. 論理的文章表現力 13. 外国語コミュニケーション能力 14. 自己実現とキャリア開発 15. 総括			

試験等 最終レポート
試験のフィードバックの方法 課題レポートについて、コメントを付して返却する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 講義後に、講義内容や討論から得た知見を参考に、キャリアデザインについて自分なりに考察を深めてもらいたい（各回4時間程度）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先 miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項